會前編

五

ル 4o
3376
5

名門 238 巻 5

ル 4 3376 5

尾張名所圖會卷之五

目録 愛智郡

中村
八幡社
太閤屋敷
秀吉公お祢〻の方と婚禮の図
木下勝俊
加藤清正宅址
定徳寺
油江天神社
萱津東宿
覚圓寺
東雛園
柳街道
杉原長房
長良村
土江天神
吉田守氏宅址
七社明神社
凌雲寺
中郷下司行直
四女子村
顔成寺
前大納言利家公
髙畠村
隠齋屋敷
髙牟神社
下一色城址
同田祭の図
芳珠寺
一揚庄
物部神社
荒子觀音寺
常樂寺
一色川
髙野社
物部郷

常泉寺 木下家定

實敏僧都出生の地
香積院
寄木天道社
觀音寺
熊坂厩跡
上社古城
末森古城
月見坂の図
針名神社
寶泉寺
岩崎瀧
景行天皇社
岩作村
太郎塚
八事村
音聞山
島田古城
毛替地藏霊験の図
柴田勝家
搭子石
蓮教寺
赤池村
磨砂
妙仙寺
富士社
石作神社
川原神社
八事興正寺
中根山
東山の春興
猫洞池
蓬莱谷
平針驛
竜淵寺
白山社
岩崎城址
佛ケ根
富士權現社
檀溪
般若臺の図
同萩見の図
島田地藏寺
名産松茸
桃巖寺
牧大池
平針古城
梅森古城
竹野山
川尻肥後守宅址
長湫古戰場
安昌寺

御床机石
山口神社
汐見坂山
御器所村
天瑞寺大政所
澤蕃漬
牛巻潭
地藏塚
師長公謫居地
仙人塚
熊野社
星宮
星崎
首塚
本泉寺
竜谷寺
龍興寺
七本松
善昌寺
高田重家旧宅
地藏池
師高塚
黄龍寺
蛇毒神社
伊奈突智翁社
笠寺縁起の図
岩木
物見岩
清安寺
八幡社
佐久間盛政宅址
高田村
大喜古城
津賀田社
剣塚
白毫寺
愛知塚
神輿塚
笠寺縁起の図
山口村
海上ケ洞
祐福寺
御所屋敷
同勝之
海上寺
大喜寺
龍泉寺
浴地藏
佐久間信盛城址
戸部豊政
星崎古城
天白川

徳願塚　山口盛幸城址
櫻田　野亟里
上野　嫗ヶ茶屋
融傳清水　鳴海驛
如意寺　花井
淨泉寺　瑞泉寺
中嶋砦　善照寺砦
細根山　桶狭間古戰場
田樂ヶ窪　両村古驛
沓掛城址　鑓倉古道

成田氏城址　櫻村
古鳴海　鳴海潟古覽
鳴海山　片葉葭
成海神社　八幡宮
根古屋城址　万福寺
成海長者宅址　丹下砦
扇川　二位殿塚
同合戰の圖　千人塚
二村山　子安清水
境川舊渡

中村

和名抄に愛智郡中村と見えし文和三年四月廿三日熱田御神領目録に愛智郡上中村畠二十二町八反云云と見えしより

豊臣秀吉公小田原征伐の時ここに御一宿ありて此中村ハ我出生の地なればよく作り取立べしとて百姓どもに草を刈しき彼仁王と我幼年の時ともに草を刈しき年ごろ有しが

常泉寺
妙行寺
太閤屋敷
清正屋敷

△物民卿

絶海捜船震
大明寧知此
地長柴荊千
山風雨時、
悉只作二當年
叱咤一声△

中山梅軒

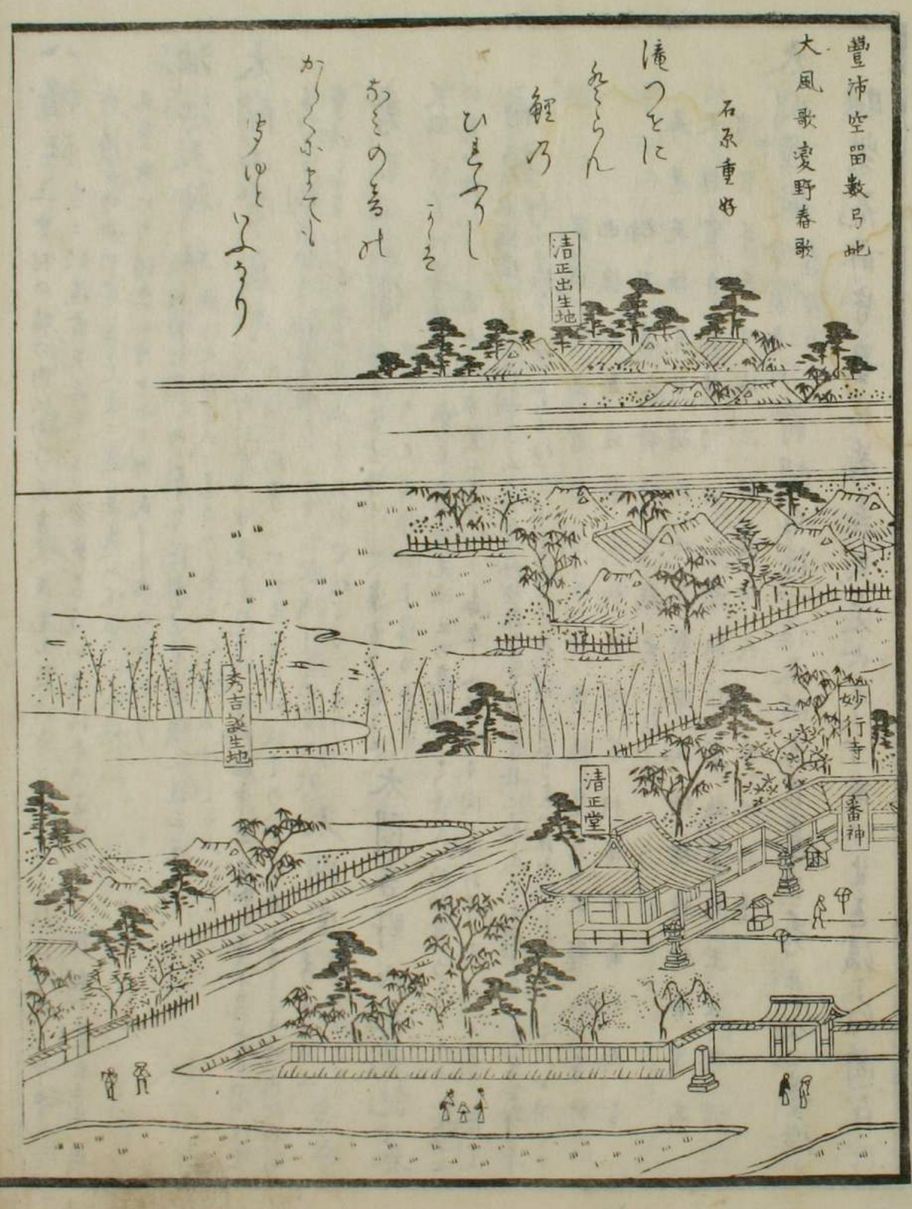
掌中一握高山河
又是當年顏色多



豐沛空留數弓地
大風歌慶野春歌

石丞重好

滝つをに
冬ごらん
紅葉
ひまもるし
うつそ
あとのもみ
かくふまでて
ちゆとまつり



八幡社　上中村の城の内にあり天正十八年吉田神社造營天正十八年庚寅十二月如庵法正の奉行として又重修せり例祭正月十七日郷民まつれり

油江天神社　上中村の東二町ばかりにあり本國帳に従三位油江天神といふ

太閤山常泉寺　上中村にあり日蓮宗萬津村妙勝寺末元和九年十月十二日開山号は境内に太閤の手植ゑの梅樹ありて今に榮ることのごとし

太閤吉野山花見記一巻　秀吉公の木像と安置す　寺寶

秀吉公画像　出だす又古作の木像もあり　容貌まさに古雅にして集古十種にも天野信景れ寄附ありて法人舉發す

扁額　太閤堂に掲ぐ大額にて百年外のものゆゑ法人の目に觸れざるもの多し

太閤屋敷　常泉寺の境内にあり

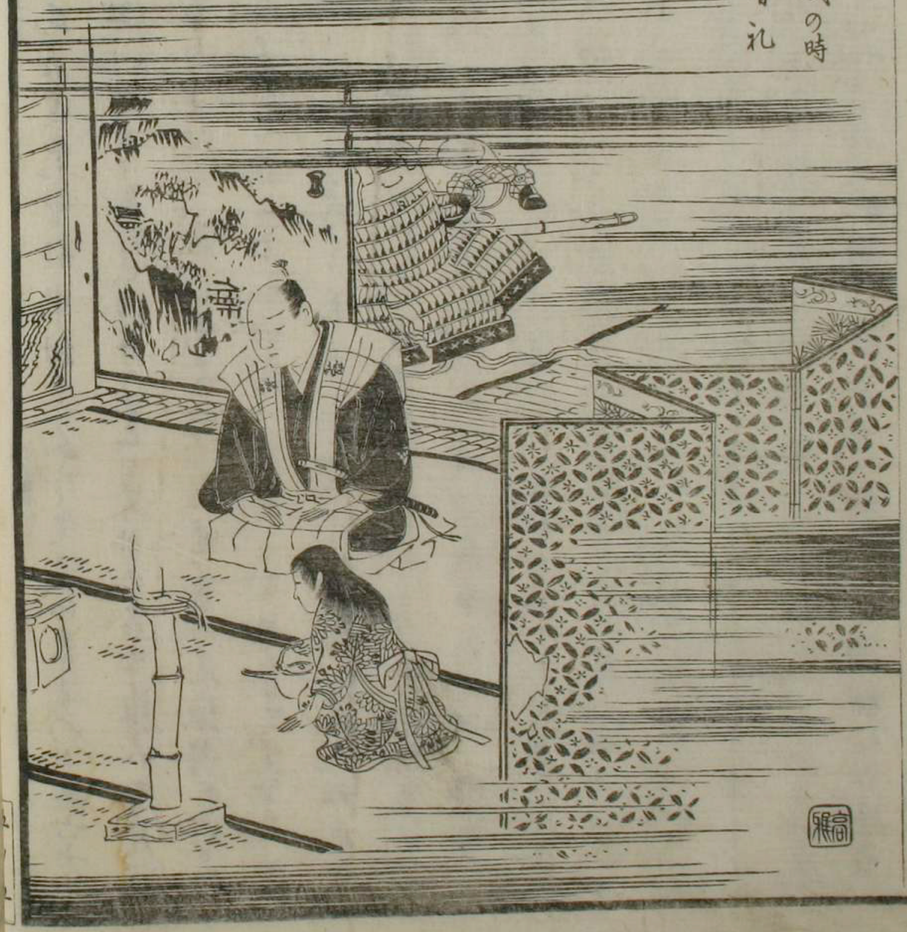
羽柴筑前守豊臣秀吉天文六年丁酉に生まれ後は関白に昇り正二位尾張國愛智郡中村とりやうして民の家に生る五六十斗

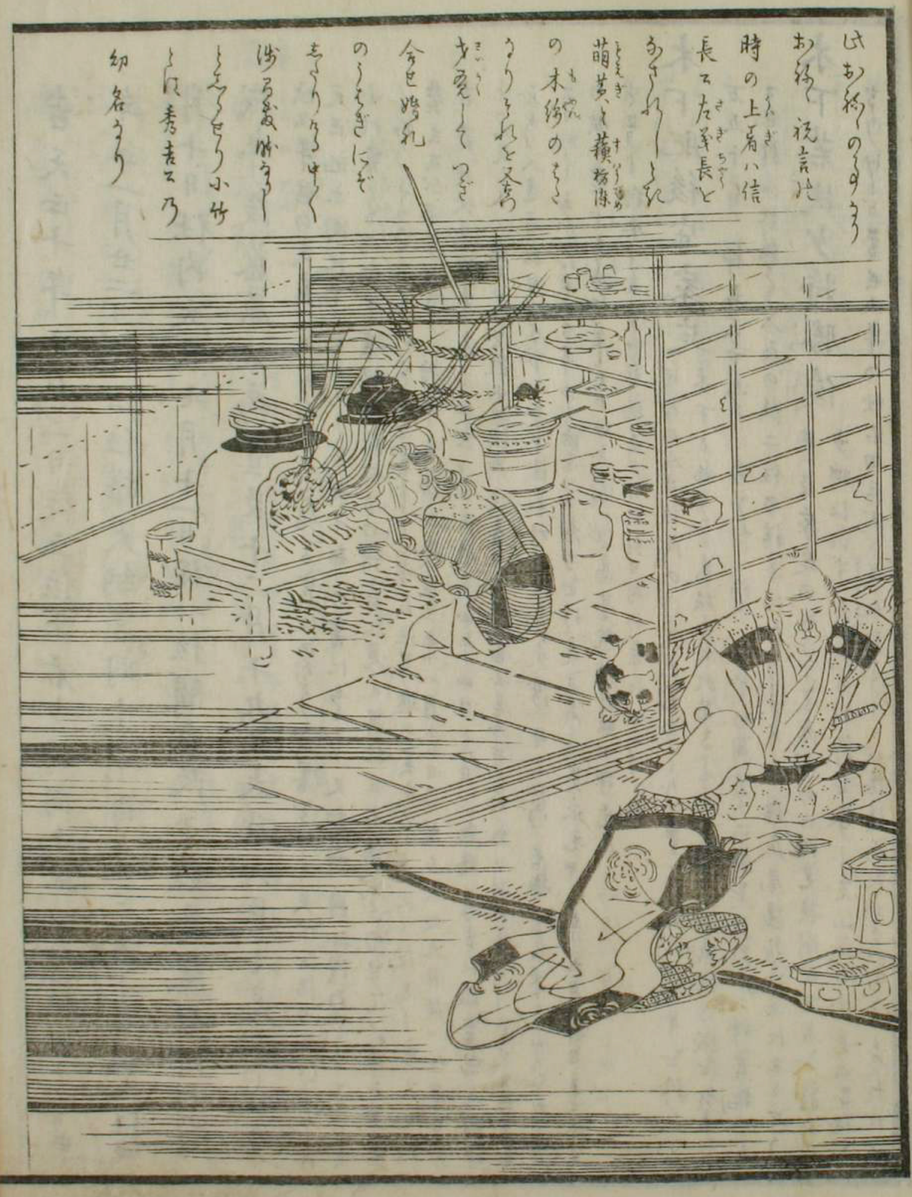
尾城西南に有里曰中村博陸豊臣公懸弧之地也後人為建蘭若於其所菱相傳寺前之狗骨乃其幼時所自栽也

尋著英雄曾所躔孤於翁鬱帶風煙襟懐何屑漢高大恩寵自無楚項偏不學誰知軍旅事文王且問渭濱賢矛呑日域三韓國一神武此非圮上傳

秀吉公貧賤の時お祢の方と婚礼の図

祖父母浅に渉野又奉公女房に浅そけるハ小竹ハ利発者なり我尊をすべーと浪りけるバ女房ハ小竹がおにハ伯母うり一度拗べーとて夫婦ゆーとりうばなり北政所とも申ハ





ばお祢のかうお祢と祝言ハ時の上着ハ信長と左筆長とあさゆふーとれ萌黄と萩柄浴の木綿のうらうれを着女房ーて今日婚礼のうちきにそもうりうゆく渉る風情なり小竹ーとハ秀吉ーて幼名うり

吉天正十年十月三日従五位下右少将同十一年参議同十二甲申
年十一月廿二日従三位権大納言同十三乙酉年三月十日正二位四
月十日任内大臣七月十一日従一位關白改平姓為藤原同十四丙
戌年改二藤原姓一為豊臣十二月十九日太政大臣と成給ふ
(以下略)

木下肥後守家定 同村の人北政所の伯父也為年うり大坂の城を守り慶長三年中浩水と号ふ慶ちを浮達三あり寛永元甲子年九月十六日永三年本
万五千石 神君天下ろろ一名されし一始め備中の国にて五万石を領し
さて後ふに移く入国の後二位の法印に叙せず一う一法虎尾陽報記ふにあるとり
木下若狭少将勝俊 豊臣家定の嫡子にて太閤の甥猶実子の如く寵愛ありけり
少将に叙せず秀頼公を奉じて山城の伏見の衣城を守り慶長五年の秋石田三成ら逆乱起こるに及ひ秀頼ハ政所の淀城に移り給ひ勝俊ハ

所の東のほうにあり淀と云ふ。頼盛うまハ義と云ふ。東軍にいうとして仇むすひ
ふして伏見をおく敵にのりうるに幽閉し長晴子天哉翁と号し和文をたくみ
らとりる其後ハ歳息記及び近世畸人傳ふの後二位の法印に叙せず天下治しのちハ所化とうひ高山のうち
くのせ和ふハ挙白集ありて世に流布しあねく人のうりうれバるふれと暑しその世
ずは尾張に旧店の地が在りすハ
左にあり尼ふの通書ふも云ふら
ふの遺記ふりつくお伴えてすまし
をまゝ伴うして庵れ
むうく木を縛し風祀
独も不已くうりまも
のおうをてけうるう

ふるさとハかくうめうへ

久うし月ハやこのかくはひうへはひなめられて

正悦山妙行寺 同村にあり日蓮宗叡津妙勝寺末二往古ハ真言宗にて正起山
改むと後星亮と称く天文年中日幾再興ありて寺山の号を今れめくり改
う伝りう一本像と安置次第に年経年集せり
毎の廿四日よい府下及び堂をの参詣たえず礼日を月

幅 一ハ上下を号日一像うて上に浄池院殿永運日乗大居士と行う一ハ束帯
の像うて左右に前肥州太守浄池院殿日乗大居士手時慶長十六年庚林

鐘下旬四日遠忌とあるは此日遠忌の像に
集古十種にも載せて尊く人のおもふみ
猫釜 古瀬戸茶入 塊の前掬 秀吉公書簡 細川晴元書簡 天
片鎗鑓 已上四種ハ加賀
法寺常什 曼陀羅 元和元年孟冬中旬僧日遠の筆日遠ハ朝鮮國の王子として清正加
と誌あり 鮮征伐の時彼地にて捕へ生ながら此地に
羅日遠と記して此邦教を弘めんとせしを
名ありさ傳ふ
清正像賛
勇若二虎一妙騁二兵機一百戦百勝受二封于肥一取二韓入一哈
迅疾如レ飛緋甲梨勒儼然其威生二擒王子一奏レ凱還歸
明人落レ膽声溢二九圍一
加藤肥後守清正宅 常泉寺より西の
方に舊地あり
中納言忠家十一代の裔孫加藤四郎頼方當村に住せ其
名孫淨正に至り清忠の二男として永禄五年六月廿四日に
誕生し幼名虎之助と號し力量智勇拔羣ふし
て志津ヶ嶽先鋒の名
を得太閤の外戚の親しきにより
天正十三年の秋叙爵し主計頭に任じ
同十六年閏五月肥後國二十万石を賜り爰に五年治一統
の後肥國一圓と領地を併せ五十一万五千石を領し熊本城を
築て莫名を海内にとゞろかす凡此人の生質廉直にして智
勇備り政務の裁決明暑れず多き中に文祿の
兵朝鮮征伐の先陣として彼地に渡海し太子及び后妃従臣
を虜し此類なき勇威をとるに至りては異國一對にても爽に我
日本後代まで面目なり 事ハ徴忠録両朝平攘録征韓偉畧及び城
正慶が朝鮮征伐記等に詳なれば茲に略す
べし 後攻清正記に尾張中村ハ清正出生の在所なる故
上下の男ハ百姓も町人も悉く人くれ前より垂れ
若きも老ひたるも海道端に設け置き桶小候を入く人くれ
そゝぎ賞ひ為軍より百姓にハ是ハ誰が子彼ハ誰が
孫ぞとよくよく詞をかけ給ひてぢぐ〳〵なきの者ども念比
小作られ浪ふ一枚づゝ毎度佳例として下給ひるをバ百姓
も感涙を流して悦るを見るより 秦陰浪石牌をこの地に
建て其行状と勝るが其文を

土江天神社 日比津村にあり本國帳に従三位土江天神
とあるもの社なるべし今荒廃して詳を失へり

長秋山定徳寺 日村にあり舊愛智郡泥津長秋山常徳寺建立之事 ‖ 和尚者雖為
當國甚目寺住侶天台沙門妙勝寺仁十一年住給其後延文庚于八月當所小菴建立九
之後日長御若年間妙勝寺日妙聖人御教化帰伏當宗給也日妙御他界
箇年住給應安元年八月二日午刻八十七歳御逝去也其後経二十三年明徳三
年壬申八月御堂建立在之為後代之注置也仍如件應永八年 ‖ 立坊 ‖ 就願
と見えり

番神堂 其像うるさき十月八日八例祭とて日もすがら説法談経ありて
うるさくてやすらに**結天神** 境内にあり
翠柳を後世一天保九年戊戌閏四月七日
うるさき日也資校々の神の人少そなむ和歌と善すらに碑と建くさて名とぞ杉小仲
公を女房くらなるもうちにおもしろくの
のやや 先と云よ立める
小坊もろく自教
せうらんうら

日比津下野守勝定 南所の人織田家に仕へのち豊臣関白秀次に参す其お
よめおうたこ公に奉りしがうち野山にて生害ありしのち
尊像三河國勝慢寺門徒尾州愛知郡
大脇郷中島顔主釈覚永と云えり

覚圓寺 中畠村にあり浄土宗東派
三河國汁洗時愛寺末

本尊 阿弥陀の画像裏書に明應六丁巳
二月大谷本願寺釈實如方便法身





高須賀菊見の図

細光

咲そろふ
きくの
久しき
栄しれ
よよ
菊と乃
秋のそ
よ
元年

集慶山凌雲寺　稲葉也村にあり源清宗京都妙心寺末天文五年南村の祖と津田豊後守法名凌雲寺殿泰翁凌公ゐ創建ゐ南溟紹化和尚と開山とを即清雲寺殿ゐ位牌あり又信長ゐ幼年ゐ時ゐ手習ゐ師匠ゐ寺ゐ由ゐ双紙無れ共今にのこまり　本尊　釈迦

阿弥陀堂　観音堂　地蔵堂　松内にあり

東宿　同村北枝ゐそむ川ゐ西ゐそ津駅のひがし宿うしろ堂はの名ハいつなぐら川ゐ名ゐ事ゐ起りつの宿ゐ名ゐ事ゐ今ハ海東郡につけり

ありうそハ市ゐ日にうんありうらうそ他里のたくひまで毎にむらぬ家つゝ後ろくのやくえかうんとまる花のかうそまんやうかうてありやも

花すゝねふもとも市への流うそて咲る家つと

米野村　今上下二村ありて文和三年四月廿三日奥田神領目録に愛智郡蔦野郷とあるが古名ゐそ

柳街道　秘宜町ありて牧ゐ来ゐ事ゐ

むうハ一柳庄へいさゝ其ゐ名ゐ事ゐ

ところ多けれバ俗に百曲とのへり

高須賀山願成就寺　うら次賀村にありて天台宗野田村慈光院末今称成寺と通称して就字を省くあり　聖武天皇ゐ勅願天平四年行基菩薩ゐ開基天永年中俗盛海ゐ中興せり古刹ありて名古屋真福寺所蔵ゐ古写本理趣釈口決抄ゐ奥書に故尾及愛智郡午郷高須賀大乗坊書写了貞治三年四月十四日とみえし大乗坊ハ此寺ゐ旧号ありて寺伝ありうゝ信長ゐ兵火ゐ時ゐ焼失ありうゝ

本尊　薬師

如来ハ行基井の作堂中地蔵金剛童子ハ弘法大師の作ト云フ　稲荷社　境内に　八叡宮　辨天祠　外

にありて某
所をにぶす

東籬園　田村某師その例うち農家にて菊と植うる三百余種数十間の花壇に
植並人　神とつくね羽手うちて実数す
ること

高塚　田村の南にある古墳うち誰人の墓ともいひ伝ふる
ことなし
塚のみなりとのこと

例として大須賀模須賀梅須賀などと
真ちうね地をさして名づけしものなど

長良村　員弁三年に写せり　理趣釈口決抄の奥書に愛
智郡午郷とうたハ此里をさしてふるき地名うち

隠齋屋敷　烏森村にあり　尾張の士副田与藤吉成といふ人ありて
剃髪して隠齋と称して烏森村に閑居して終りしと伝ふ

小見えし　旧跡今隠齋屋敷と称す

杉原伯耆守平長房　田村の人　祖父物語に木下藤吉各勢の
ために攻落されし富塚と称す

ち妻子ともに美濃国へ逃れ行きしが
俄大名にうて家人ともに迷惑して伯母聟吉藤と
清須にまんじゆく南向して居けるを頼みて七千石のうち七百

石ともに来りて仕へ大ひに成りしも十ふ一とせんと約束
なりしを俄小杉原伯耆とやらいふハ吉藤うるさうと
言ひふらされしもはたらびて太閤天下一統しまひなも
ふびの但馬國豊岡の城三万石を授けし慶長五年の乱をを通りて
長房　御當家に志を頂きし女流うち

岩塚驛　東海道佐屋より桑田訳うち次第但馬うつぎ之丈和三年　桑田神
領目録に愛智郡岩塚郷とあるハ此辺にて墓ハ墓の誤字之
白湯集
日輝金尾一躍金龍間顧
雪依稀住ム望一蓮華一
東行話説
朝發二名護屋一

七社明神社　岩塚村の　本社　日本武尊　摂社　八剣宮　高座宮　大福田祠
日割祠　氷上祠　源大夫祠　末社　若宮八幡祠　天神祠　大日祠
弁財天祠　三狐神祠　熊野祠
田の七神を祀るゆゑに七社明神と称す
白山祠　當社ハ　日本武尊五十葛山の荒神と退治せんと桑田よ
り彼山まもりの人道ゆ所まて皆く慙ひ改ひて旧地もりて其時

御腰をかけ給ひ一岩と共に本社の东れうに半里もて粧存す又其例小大る塚あり尚所々岩塚の称是ら起るとぞ〇例祭　四月十七日にて田祭と云ふ俗に稚き条又きねとさ条ふる云甚古雅うるわしき事にあらうらその七日以前うら万場川にあらひ身を清め当日申の刻より装束の式あり扨て入氏の刻非ずにおひ拍殿のおうて稚おろしと云ふ事と行ふさて稚おろし一条つく名列をうし拍殿のおうて三条うして俗をふべしと稚おろしの唱放るさ此時のごとくでんの稚おろしと云ふ事うしてれんじゃうと云ふのみうて門前やからたのしひけのたひうりせんごくもて引ぜんこくもまいりせんこくもまいりせんこくもまいりせ

七社大明神

御神輿

七社明神
田祭

御神輿

重七不ㇾ忘に加賀井弘八所ゞゟ大にたゞ〳〵て泣ゐて東更
幸之の志を世ぞ尚も哀みけるバ任ㇾ秋田右内ゝ云ふ人の浮大事に一ト奉ゝ仕ㇾ度
の成にゐて我〳〵ハ浮分國に蟄居の浪人ゟるゞ今度の浮大事に一ト奉ゝ仕ㇾ度
正則對面一ゟゟ生のゟゟハ為〳〵ゟ及ㇾて并妙の志祝ゐゟゟそやて二人と捕へさせ
樂寃せ〳〵ゟ五関が原の一戦終ゟ正則ハ浪に伊予の内二人と引ゐ一着を飾させ
石田にゟカセバ討果すべき支度ゟ〳〵といふに通ㇾ生一ゟわりて寺惜ゟ〳〵ゟまひ〳〵や
たゟひこ様とゟゟゟゟも正則　并君（実れ忠節をゟ〳〵さんよい吉田兄弟が志をゟむべき
かゟゟ次正則勇猛の良将ゟゟと之ども此
仰付ゟゟ一洋ㇾ自ゟ拓く雲孔
災害ゟ〳〵ゟゟ

鬼頭山願興寺

（牛之村にゟり浄土真宗岳派三河玉所寺村本徳寺末ゟ古渡にゟりて
天台宗ゟゟ尾張玉に開基ゟ〳〵ゟ浴世
の尾次町　本尊　阿弥陀
元真ゟ〳〵　の立像

四女子村

九州の守護大権紀伊ゟ平良経ゟ〳〵浪南玉のゟ護衆大夫高春が扶持にゟ
ありけるゟのゟに教縁ゟ深会にゟりて帰
毎ゟゟ二女を依く木二寺を建入道西念に下ゟ景重に下ゟ是小二郎ゟ嫁ゟ母ゟ三女と女亀玉羽山
宗教四女を大友四郎大夫経家に嫁ゟゟ〳〵彼女子ゟ〳〵出生の地と浴世四女子村と名づけ
〳〵浪合記及び大権家譜に見えゟゟ彼ゟ片端里れ豊饒の人七人の女子と七所に死〳〵
て一女子ゟゟ七女子まその村名のこゟゟ
伊波とハなゞ〳〵ゟゟ〳〵ゟ伊豆と西波ゟ宝ゟゟ

一楊庄

十年三月廿三日中将蒙仰有殊御宿願　太神宮御領六箇國所被止地頭職
其所〳〵ゟ尾張國一楊御厨ゟ〳〵ゟゟ東路に是久
神屋物等ゟ　太神宮の御厨れゟ〳〵にゟゟ

中郷下司行直

中ゐ村の人ゟゟ　王葉に建暦元年六月廿八日未剋許藏人兵部太輔家宣奉
近朝申ゟ為尾張國一楊御厨中郷下司行直并後見寛養法師等彼行直ゟ真時資財相論間
任次第不知旨ゟ為致沙汰罷向在地出立處所従并百姓八十餘人不論是非従馬引落打剝
烏帽子破損狩衣打破面貝及種々恥辱古今無双狼藉事ゟゟと見〳〵ゟゟ　玉葉古写ゟ
浮字多く文義ゟゟゟ〳〵ゟゟ〳〵ゟゟ仕争論百姓八十余人真時に為搦〳〵ゟ下司行直及
び覚養法師等と馬ゟ〳〵ゟゟ〳〵ゟゟ〳〵ゟゟ
猴藪ゟ及び〳〵ゟゟゟゟゟゟ

如意山常樂寺寶珠院

同村にゟり真言宗名古屋大須真福寺末元ハ泰澄和尚
同基れ伽藍ゟゟ〳〵荒廃〳〵て今ハ浴沢光明院ゟ
と掌　本尊　某師ゟ来弘法大師の作ゟ
中々の不動と称〳〵ゟ条話の話人事に多〳〵

高畠村

むゟ〳〵ハ一条深閑画良公の在國の地ゟゟ桃華薬栗に尾張國高畠庄家門由緒
庄者買得之仁萬一令得替者致訴訟可致知行ゟゟ文明十二年卯月上旬為左大将覚
跡任筆注置也と見え東鑑にも建久三年十二月十四日一條前黄門書状泰著以と室遣
任箇所譲補男女子息ゟゟ尾張
國高畠庄器所松枝領とゟゟ

浄海山観音寺圓龍院

荒子村にゟり天台宗
野田村寒巌院末

澄和尚の開基ゟ十三年開山僧自性建立永禄八年法ゟ全
運の中興ゟ〳〵て尾張四観音の一寺ゟり元禄年中僧円空
尊ゟ来寓ゟ〳〵時救千ゟ仏像と勝剣ゟり　抑円空師ハ佛

苳子 觀音寺

津金胤臣

春雨聲如ㇾ接ニ海潮一
觀音寶劍一蕭條
紫藤為ㇾ架天台路
疑是雲霞垂ニ石橋一

紀世德

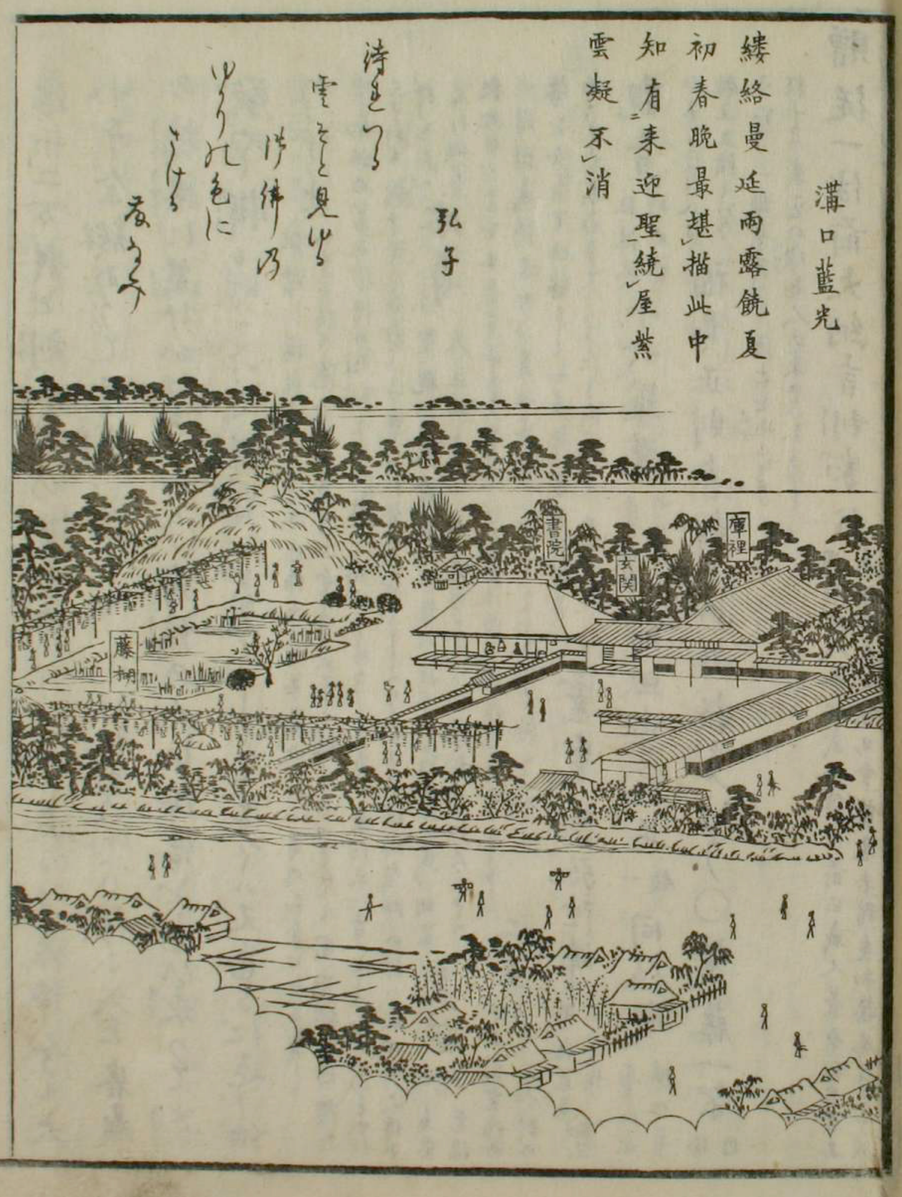
藤花深架紫蒙茸
池上蟠根起ニ臥龍一
香刹看ㇾ来瑞雲滿
補陀高興絶ニ塵容一



溝口藍光

縷絡曼延雨露饒夏
初春晩最堪ニ描此中
知有ニ来迎聖一繞ニ屋紫
雲凝不ㇾ消

弘子



像十二万躰と刻まんとの誓願空しからず甚だ作佛今も大小千余躰ありて檀上ハ儀小公に習ひて八儀小公を客殿の棟梁に懸けおけるもあり有信の人ハ佛像を乞ひ求りて崇敬や懈る時ハ祟へつて現罰ありとぞ

旃檀に護法神あり 亦同作りて甚脊中に一首の和歌と自筆わづかに書いくたびも絶へんとせしも絶へざりし三會寺九十六僧未の世まで七圓堂盛又同檀にくされる法本くりかへして子守りれ祈と我うまれ洋うれば夜に暗を **本尊** 聖觀音泰澄和尚の作今れ堂ハ前田又左衛門利家秋迎の三ヶ月と安立す中ヶ嶺深閑ハ即四堂の作心矣事年中小修四威儀造ヶ皮政年中に修今ハ二王門の南に立ヶ像を安立すれ像ヶ多寶塔 多寶佛 釋迦 多寶如來 の二尊ありてくにうせ一尾陽雜記に見えたり

觀音 弘法大師の作 **十六羅漢** 李龍眠の筆 乙未十二月八日 **願主正清と云ふ** **福島正則書翰** 一通 **前田家具足** 一領 **同位牌** 壹に永祿八年小竹一根拳ぐ一池也と巡るる救ふる衆生の像也人の來參多し

贈從一位前大納言利家公

同村の人本朝武林傳に前田藏人菅原利昌者其高祖出自天穗日命菅見未精矣初築尾及荒子城

以居焉荒子与前田村相去僅十町許故以前田為氏有男子利家為真人也寛仁而智勇出群自幼事右大臣信長公處而無不從每戰不能無軍功云云と見えたり天文十年に誕生童名犬千代又孫四郎と改め壯年に又又馬助と名のる通称十四年小て初て淮秀吉ヶれ姓及び官名を讓り法明宗純と叙爵を賜ふ加賀五萬石を領す文祿三年の役征三位中納言に叙任し慶長二年二月十一日大納言に貴孫を以て終に秀頼の傅及び天下の大老となる慶長四年閏三月三日大坂城にて逝去ありしかば天正記信も記載田真紀おに見えたり又太閤記に委しく四年閏三月三日大坂城主前田与十郎尊 創建の年月詳ならず

高野社

鍬六口を備へて神人參事と行ふ世に傳ふる事ありて去ル文政十年の冬古社やうれるものを出せり參詣のものこれを取り帰りて家内安全及び近國ともに流行病除ありと云ふ基ならん

例祭

正月十一日 稻束及び

下ノ一色城

下一色村にあり前田与十郎利長夫婦同居して都見あに北面ふり前田与十郎利長ヶ上京ふ向ふり信長ヶ其奴僕頼幕ヶ公儀に我ヶ肝とけ一色とふりふひふり利長又利家の能ふ者ども我前の府中ヶ出ハ跡の祝遣に著くして先長ヶ尾張の一族前田与十郎方へ妻と被けんといふれ是ハ裏かきの立天ヶ利長ヶ受け汝ヶ妻子の安否と同じ意なれバ是ふり思へ侍べしとて無く帰せ也ふ是内室ふ其村治兵衛あ妻土の在去に帰ふ子連我府に帰國ありしふ利長ハ見えしハ此城ふふりて旧地今ハ一色川ふふりてならぐく廢絶す

一色川

村のあふる大川ふりて此内川の下流ふり此川下に海河の法奥多く雑小蛤見化產ふ捨ふふく味美ふるを名產ふり多くハむきふりてこれを

高牟神社
物部神社



かたうそや
葵うつ
紹春に
法名業
武龍

ひきく成小下ノ一色に漫漲と業くさう者八百余家ありて日毎に府下に運漕ぢり其穀と焼て石灰と製す又こゝ小舟渡しありて西の方海東法西の二郡へ通ふ皆と下ノ一色の渡しといふ

高牟神社 古井村（こゐむら）にあり 成務天皇の御宇の建立なり

神社本國帳に従三位高牟神と称するハ此社なり 延喜式に高牟神社と〇本社 祭神高皇産霊尊 清和天皇貞観元年正月元日実の刻より夜の刻まで御祓ありし事ハ此社に多く年山下大和氏猪渡後と称するハ此社なり 例祭 九月十日 神宝 春日権現霊験記 本尊 地蔵菩薩 小野篁の作にて霊佛なり

金竜山芳珠寺

日村小字ありし頃ハ寺号ハ大地なりしが救苦観音再興ありし後又年月と経て堂宇頽壊せしを現住良宝と云僧に儀ありて一梵閣とハなりぬ 牡霊路ホトトギス

物部神社

俗に石井堂と云 建中年間車道の東にあり 自然に地より出る一巨石のうへに社をたてゝあり 祭神宇麻志麻治命 古社ハ荒廃し延喜式に愛智郡物部神社本國帳に従三位物部天非良比命と元禄年中 國君祠と重修し石牌と立しも今ハなし

物部郷

和名類聚抄に乾智郡物部郷ありしハ此地なるべし物部神社の名をきゝて旧地なるべし

寶敏僧都出生地

文徳実録に斉衡三年九月癸卯大僧都伝燈大法師位寶敏卒俗姓物部氏尾張國愛智郡人也云々と見えし元亨釈書

に敕賀敏姓物部氏尾州愛智郡人母愛宝中走三層塔覚而有孕延暦七年生日有重瞳耳孔相通年十三従伯父中安法師一入京云云兼和八年於大極殿講金勝王経帝賞賜捷擢僧都齊衡三年九月卒年六十九云云と記せるもまさ物部氏うれしはあるうおなせのくさぐさ旧地くくうせくくさ今ハ志る人今

太郎塚 古井一村れ南にあり中古けもに古井太郎といふ者あり性怯弱うつーダ軍事あるて援兵をもよふ人人うれバ修して兵と出ぬるあるいを機に人夫というる塚を築うーひ終へ一名馬走塚ともよべ

川原神社 川名村にあり法尾まれ文ハまれ塚うるーひ終へ一名馬走塚ともよべ

の年月定うる後

従三位川原天神とあるハ社 境内に後多く墓石文ハ

度會郡川原神社と同神 うべー境内に後多く墓石文ハ

彰樹のこどうふ新かうて 欝くる森林青紫とまごめる実小

壮紀の一勝地なり○未社 山神祠若宮祠辨財天祠等あり

擅溪 川名川の下流うて湯滝うけもの土橋を架ー橋と竹もて此邊ふ仙境ともいふべー古今文人の詩歌数多うねどこれと器を

味岡山香積院 旧村にあり曹洞宗武蔵国埼玉郡成田龍渕寺末文享四年の開基なー万松寺れ法弁元をうるー開山なり

本尊 釈迦如来れ古仏像し **霊宝** 一葉観音画像 永平和尚筆式像名うるさ実仏かて毎隠和尚が雑華集ふも



檀渓



おせ
般若臺　安永年中香
三丁余ゐ後院ゐ位雲即和尚の開き一菴して味岳山とゐ事
一切経蔵　もと京の
の考附　謝蕃　牧谿ゐ陽士ゐと擇へく行す塵と消ゐる意にとりてかく
ゐけしくそ為をらぐめハ竹中氏小伝に壮年ゐも娶らざ性酒と琴く博く摯書小説
ゐを画かざぢう又書と若ひゐを学ゐ事の書画世人争ひ珍へて孫をす始雲林老師に
ゐ一紙餐して章甫と換む数千金のき味と知ゐらんとてこゝ多ハなく老師小徒
ひて山居ゐ則海居ゐと号ひ清操のゐ波ゐ画と見てもこゝ海居の新字杜存せり
ゐ云姓ハ雀尓字ハ彰甫俗に称ひ海尾ゐ移刊ゐ
葉考四十五ゐ
八事村　康正二年遠内裏阪浅ゐ国役引分に参賀文三上美濃敬尾張国八事小通
八事云くゝゐるして天保両年の
古き地名ゐり今ハ写村と云
八事山興正律寺遍照院　八事村にゐり古き律宗和泉国大鳥郡大鳥山
ゐ事ゐひて弘法大師と開山ゐ
比丘と中興開山となりし
神風寺派ゐり元禄元年八月廿八日　國君達
野ゐも称ゐ女人結界うれバこゐ
尾張高
富山ハ東西二山ゐりて尾張高
尾常に女人の参詣ゐ事ゐる事ゐり西山ゐり東山へ参るよハ
能満寺の例ゐりつまよりて古ゐに有縁無縁の石塔婆
数百建つるね高野山奥の院ゐ擬す氏内に学堂ゐり夫

般若臺

般若臺山居
僧雲卧
川名山頂勢
連天物外閑
居絶世緣夜
聽鹿鳴唯靜坐
松風殘月思蕭然
自題謝菴
丹羽嘉言



謝菴閑寂晝
如夜ゝ如夢ゝ
時偶如覺日ゝ
清閒以寂滅養
浩然之氣樂在其
中但未能免筆墨
業障聊書所苦以
遺知音云

登香積院

國枝守義

杖山遠筒
曳杖登香刹花開五葉濃
風前青靄亂檐外碧嶂重
僧對半輪月鶴眠千歲
松深林春未老坐藝度
疎鐘

香積院





ゟ花へ山と登りて女人堂ゟ半町程東に九品臺と称して九品佛の石像ゟり此山にゟりて開山塔ゟり此山と善衆界とゝなす恵女ゟ大日如来ゟ居まするゟゟの山を呑海峯と号く眺をよろしくす又ゟへりて開山堂ゟり其東に接守八幡宮の社ゟり此所と吐月峯とゟ云ふ月の頭ゟり夫ゟ東山のお堂おゝへある委ゝゝハ図と見て知ゝ〇惣本尊 大日如来 木立向ゟ 長一丈二尺座石の下五向四方ゟり寺寶 釋迦如来 摩竭提国ゟ 東山本尊 馬頭観音 西山本尊 正観音 三尊 御衣木ハ帝釋槽 御厨子ハ鉄刀木 迦羅木 枝サ五寸 碼碯石香盒 靈照女 古法服 元信筆 白衣観音 北嶽毘沙門の筆 魚籃観音 即非禅師の筆 五百羅漢水と渡る図 恩恭筆 鑑真和尚竺布廿五條の袈裟 泉涌寺大鳥山ゟり結来 弘法大師



石河伯亨

養浩齋詩藁

古寺追遊幾歲違
祇林凡物自依〻
銅龍吐水滴苔石
金鴨吹烟上客衣
簫外落花空鳥喚
溪邊芳草有僧歸
晩鐘宝地殷勤去
山雨謁著疋春日微



其二

天道高照寺

賣茶園





三鈷杵　うを山真律院の別所うら付来　大黒天河利帝母像　あも山中に　おつてお沢　鬼谷

子像　顔輝の筆

天道社　岡村にうつり天道山高照寺と号し居侍れとも陸奥守義冬公妙心寺春江和尚を請じて延喜神名式に丹羽郡稲木神社本國神名帳に従三位稲木天神とうつし社旧名にうりて寛保元年五月廿八日うつにうつし社旧名にうりて寛保元年五月廿八日うつにうつし社旧名にうりて寛保元年五月廿八日うつに

東山の春興

香實

幾擔行厨
幾氈酒人
結隊入東山
東山滿地花
開處未了看
花醉倒還





陳李琳

沾鵬臺先集

見立天氣克夙
行寄木山毛氈
布芝生酒樽置
樹間敲三絃始
曜戲藝者忘還
蹴押野山興可
憐開帳閒

無孔笛

紅衣
落もはてしれ
紅裏に
見さいやふるも
けまなうい
山

音聞山

姑射城東一古丘
于今尚見石林幽
海風時送潮音遠
引雜松濤到枕頭

魯菴



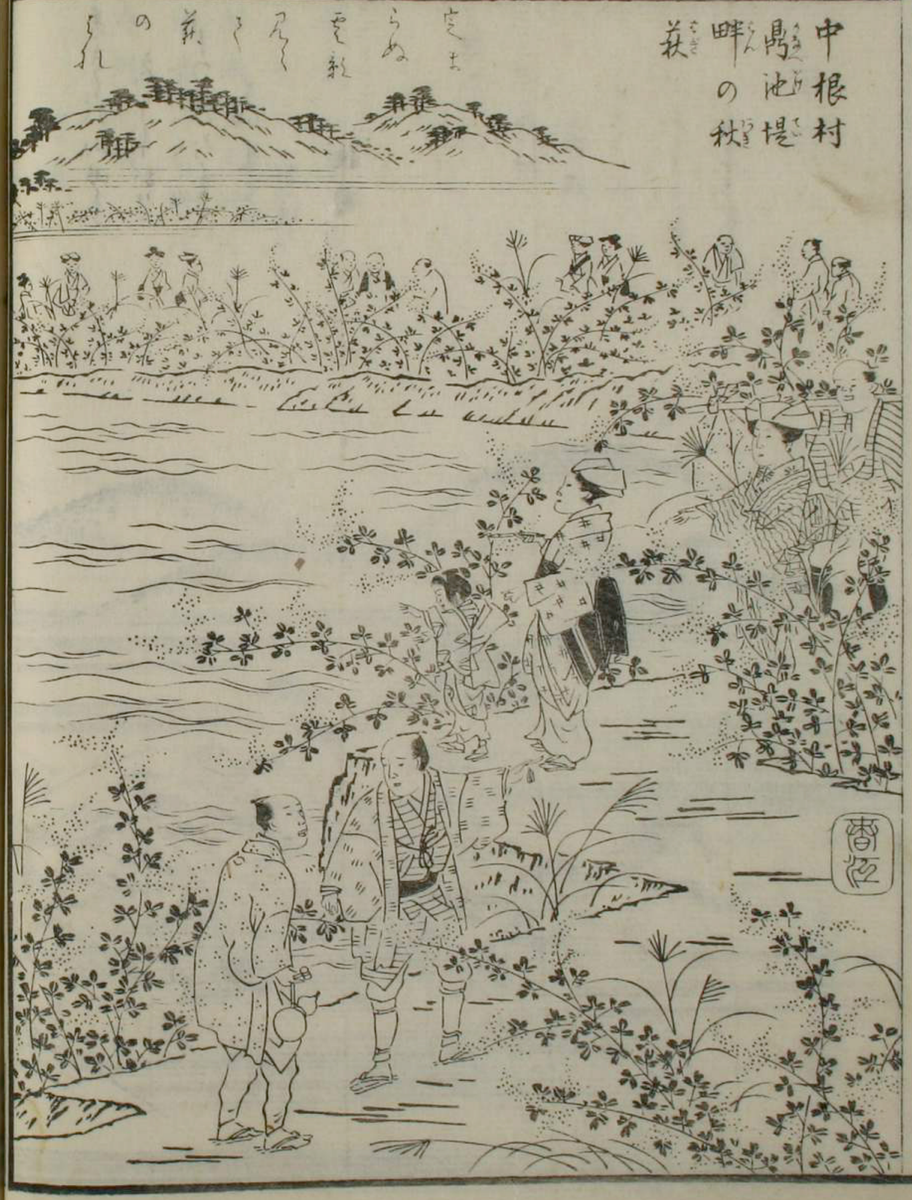
忠菊岡仲詠



玉松

鳥池

中根村鳥池堤畔の秋萩





城内の事うべし

古廐山地蔵寺 同村にあり曹洞宗淨泉寺末本尊毛髪地蔵菩薩ハ世に毛替地蔵と称す 昔し当寺の霊像心早天に雨を祈るに必ず験あり又雨地蔵とも称す

熊坂長範廐跡 同村字うりむら にあり 盗賊熊坂長範馬を飼ひし所なりと云伝ふ 今猶字廐につゞきて田地あり 毛替地蔵と称するも実熊坂長範ハいうまでもなく一時の梟雄にして馬盗人にも力をかして毛色を変じ追手を欺かせたるとぞ 尾張国に伝へ行はるゝ盗人の法を尾張流といふハ是なりと云ふ

名産松茸 牡田山及び近村の山々に産す 味美にして香気ありて他に比なし

上社古城 上社村西島の人家のもり有る山を城跡と称す 天庭誠井禅定門文明六年午正月四日前山之城主俗名加藤勘兵衛宗景と云ふ 村の北に当る森村も云伝ふ 武田武兵衛信行に攻られ落城せしとぞ 又云ふ 村の人家のもり有る山を城跡と称す 武功ありし勇烈世に聞ひありと云ふ 俗名良将ありしと云ふ

柴田修理亮勝家 同村の人なり 長ずるに及んでわが郷人の幼くして父母に別れ孤独なるを見て甚だ憐れみ 天正十一年四月太閤秀吉と異ありて北国征伐の為に居城ありしが天守に火をかけ亡びし時 一門紀孫三十余人城中にて切腹し内室ハ迫ひの伊香郡木之本村浄信寺の別面にて自殺ありし 又勝家の北の方ハ信長の妹お市殿と申ハ浄信寺の記録に明らかなり 今猶浄信寺にハ勝家の位牌ありて江北小谷の城を脱出し給ひし長政の子五人ありし三人ハ女子二人ハ男子ありし長政滅亡の時女子三人ハ

放市敷沽共に伝ふ其許（ばかり）送りけるとぞ伝ふ
当時天下三双の美人うち尾張も二に数ひとぞ又四月廿三日の夜うち
ごろ一とき余信ひとくの女房をおめ城（一所よりびわうつて今生名残の酒宴と
かし一枝やけぬ見ハ後嘉夫婦おびく国に入て帰人にむひつてをこハ故因有て信長
見ハ秀吉心たすけをべし一族相共城うおたゞひて落うくおくせもと春三いきわけれども帰人
りうともに死んとをちぎりて伝それとうちみき酒のおうし一なくぎ源のあとを追て小谷伴方信を
乞妹さうなふ井ぬうほうきの名をも井ふけよ山ほうくきも
うちき池の名をも井ふけよ山ほうくきも 四ツ井宮婦人とさし一教し一指南切後一
て中村文荷とりふのふ首をとせ文荷うふに御池屋敷指うくし雪のうく
もちおうをつもり返のちくや死おのの山かくきもと秀吉き筆ふんさうとし安夜
的章ぐ年山記聞ふちうり

猫洞池（ねこほらの）

未表村の東北にうり寛文年中
これをうりて田にそゝぐ用水とす
（牡松間ふ集年ふさうに載んとうるに未表と又変にぐく表に池水ふり猫ふ洞とふ
若竹とうち浅水とうつ
島路新洗て水底小清一見うりてこと
庵くまうして民家適小見ふいさや年村国とかして蓮葉のかさり
重嵩茶やれうの引うて

泉龍山桃巌寺（せんりゅうざんとうがんじ）

同村にあり曹洞宗白城雲真寺末天文年中織田武蔵守信行
建立しそこ文徳ふ信秀ふ別信秀の法号うり信秀の
父子及び柴田権家ふ位牌あり

末森古城（すえもりのこじょう）

同村小うり織田真紀に天文十六年桃巌ふ撤ふ古渡城新築城於末盛
山而居嶋と見え信長記ふ信秀ふ後逝去一末売の城ハ勘十郎信

月見坂

乾堂

屈曲溪山路高低
數里来攀頭擧月
阪臨眺夕陽閑

正韶

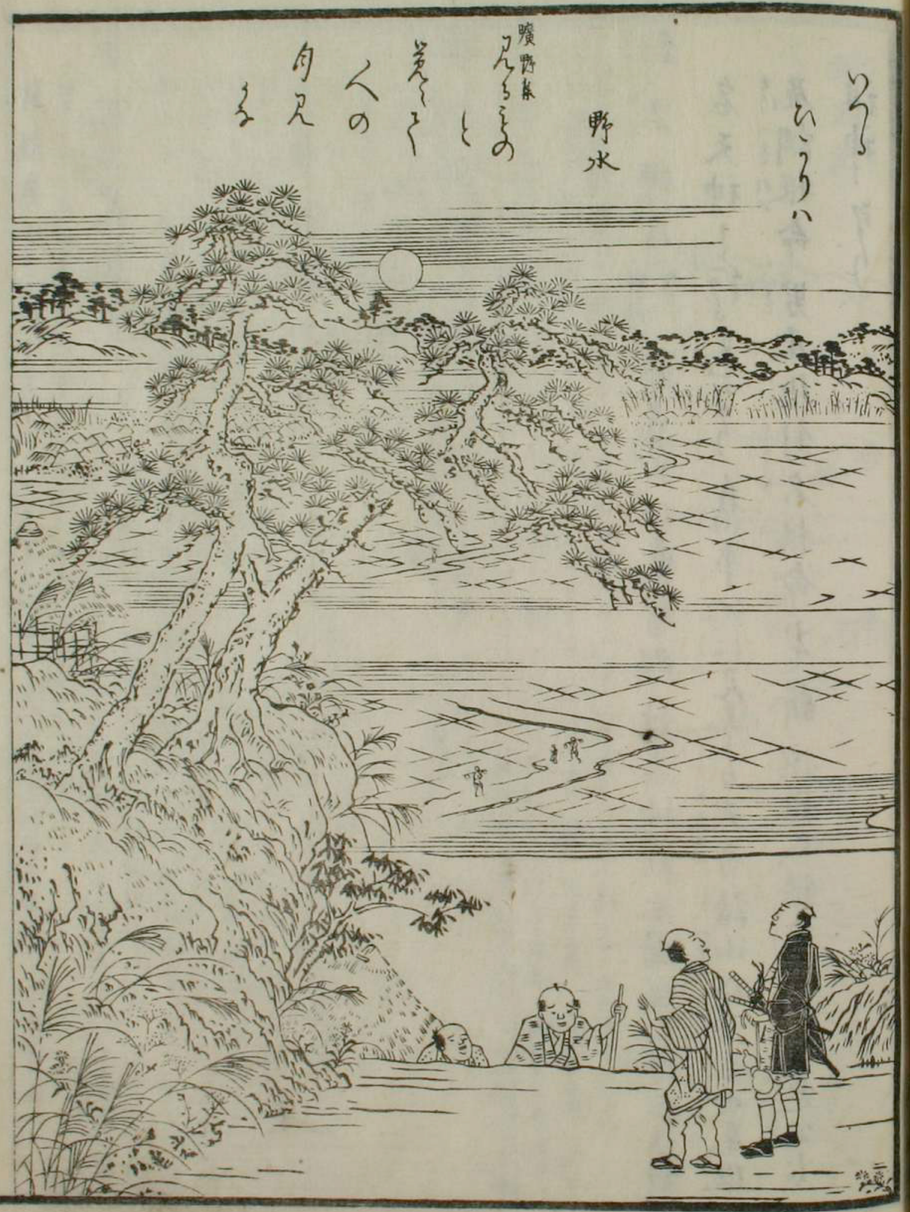
さやけーな
秋の
おさまの
月見坂
手筆どころて

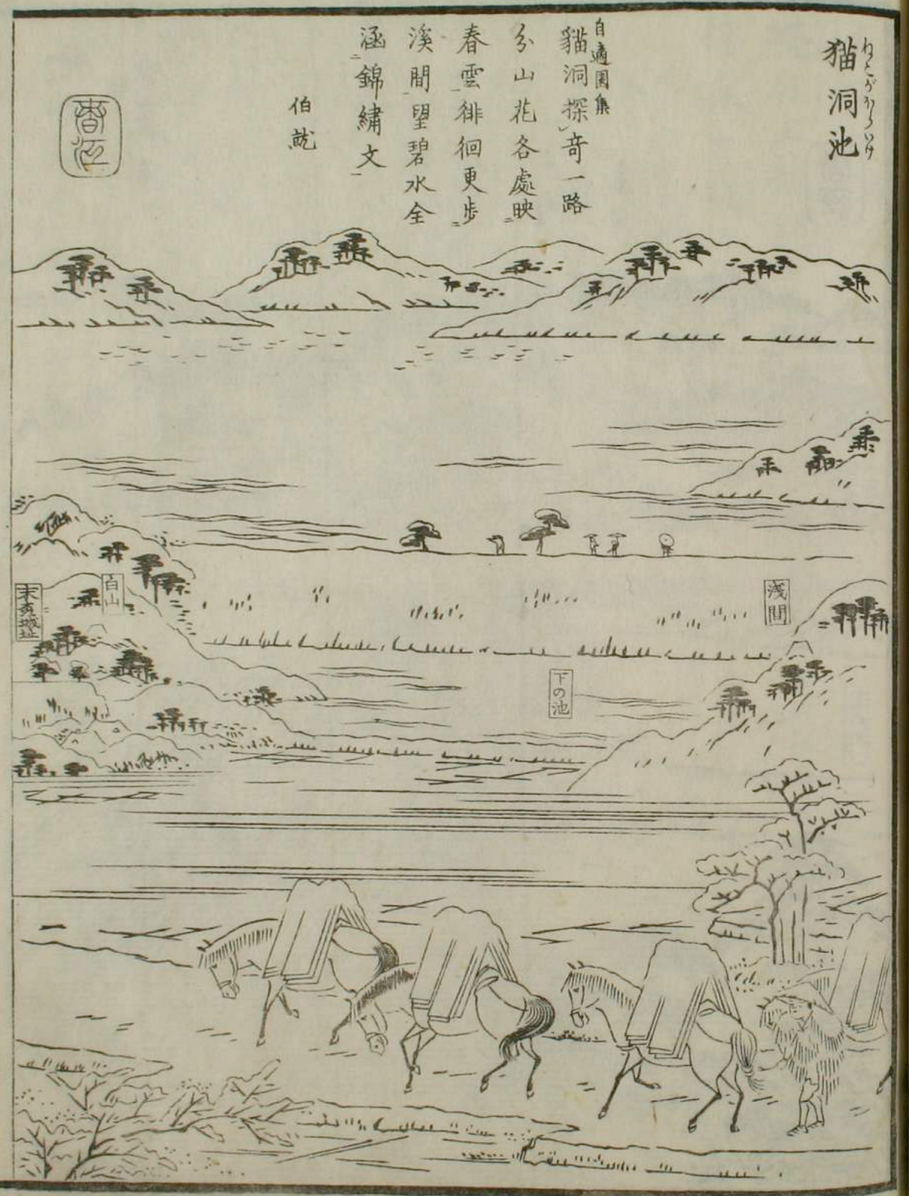


野水

うつ
ひこうい

喰物屋
ろうそく
ろうそく
人の
句見
る





砂礫點ずる八坂ノ塔前に世も更に印旛ぬまも水も同じ月下の秋景好ノ妻すゝに尽ぬ

法雲山蓮教寺

同村にあり蓮華院教院ともに明眼寺と称む往古八山内ノ坊舎聖光坊智根坊などありしが兵久の兵燹に焼失ぢ後蓮勝の代に至り再興ノ功ありて教寺の号を賜ふ

本尊 阿弥陀如来 恵大師の作

白山社 境内山頂にあり例ノ御朱印掛軸あり

寺宝 古制札

今川氏祝ノ判物あり

塔頭

平針古城

平針村人家北の方元ノ堤村へつゞきて畠地へおよそ大道の馬つぎうち

福寺の寺地に庚暦年中傍示杭村小路田左近右衛門長安の寺と寺号ぬ

平針駅

針名神社

同村小

延喜式に愛智郡針名神社本國帳に従三位針名天神と記ノ

尾張国愛智郡針名根命考

祖神

猪子石　蓬莱谷



婢かくや
まゐりの
いとまごひ

小石川
春古

赤池村　神鳳抄に尾張國赤池と記せる地

太神宮の供厨うけたまはりて
曹洞宗岩濤妙仙寺末天正二年丹羽某カ
南原に館を構へ寺もうつせしを
三義の南村脇景寺のうち
三義ハ南村脇景寺の建立なり
道西天文七年代ゝ血脈お某して住持せるよし之を又
南村に杉平助兵衛の居城跡もいひ伝ふ

蟠住山龍淵寺　赤池村にあり曹洞宗岩濤妙仙寺末

菩提のために建立せる境内に氏従の石牌ありて蓮泉寺殿龍潭道
成大禅定門所戸城主丹羽和泉守源氏従明應六天丁巳八月六日卒とある
同村西浦と云所に氏従の城址あり氏
明南玉丹羽郡丹羽庄に来住して始
その城を築て居住一男子と多
くの城を築て居住一男子と多
くうまれ給ひ丹羽氏を称す氏明四世孫氏従
に至りて本朝武林傳に見えたり

梅森古城　梅森村北の方にあり杉平三義高照の居城なり三義ハ南村脇景寺のち

代々血脈お某して住持せるよし之を又
南村に杉平助兵衛の居城跡もいひ伝ふ

竹流山寶泉寺　村戸村にあり曹洞宗岩濤妙仙寺末天文四年丹羽和泉守氏従

成大禅定門所戸城主丹羽和泉守氏従
同村西浦と云所に氏従の城址あり氏
明南玉丹羽郡丹羽庄に来住して始
その城を築て居住一男子と多
くうまれ給ひ丹羽氏を称す氏明四世孫氏従
に至りて本朝武林傳に見えたり

磨砂　村戸村北の山よりも出る白砂にして

白山權現社　なて村にあり大永三年九月十日丹羽氏某勧請する氏清と記せり

竹野山　岩濤村西南にあり氏清の

岩崎瀧　竹野山の西南の方山のふもとにあり

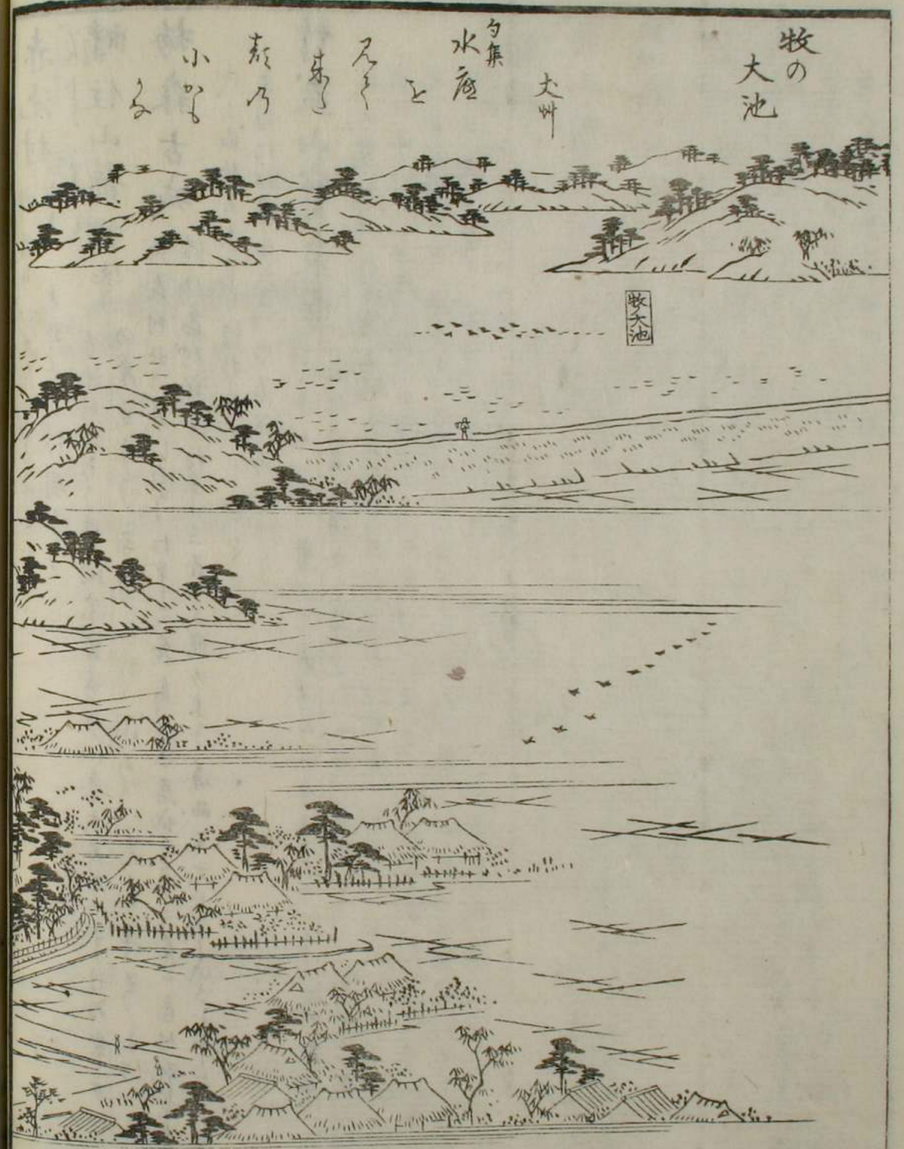
大椿山妙仙寺　同村にあり曹洞宗

仙寺ハ氏清の法名大椿院ハ其室の法名
寺宝に丹羽勘助氏次の書あり

牧の
大池

大州

白集
水底
を
尽く
す
春の
小鳥
哉



蓮教寺

雲多

水多や
ふ
底ゞ
そ
秋の
ゑ




岩嵜瀧

岩崎古城

田村小ぢり丹波守秀吉氏清天文七年ちゞりて此城と築きこゝ子右近大夫氏次小牧の陣営に赴き南蛮と等にちゝりに四月九日池田勝入森武蔵守大軍を帥ゐ攻ひ田表の掠奪と残ひ勇義と振いの入城ちゝこの三十人恩計二百四十人ちゞく戦死也氏重法名鉄樹隆傑山常英大居士妙仙寺に位牌ありかゝ為忠景も同時に討死すちゞく氏重小勢ちて大軍と禦ふつ奮の余とおゝちゞく大功ハちゞく天地とそきまゝ氏次ハちゞめ織田信雄ちに仕へつ天正十一年いさゝのちにちゞく主君の勘気をこふむり三月十九日辛年一五十二冬治五伊保を万石と仮知ちり中治郎板倉村神明社の永禄八年十月十三日事典の棟札に清和源氏云ゝ丹羽氏任市園勘解由盛吉子息丹羽勘助とあちゞ棟札永禄に書ゝ為少て甚ゝ実とあるぢか

川尻肥後守宅址

紀なる八同村の人うて今ちゞ変ちうちゞめ与四郎と云ひて無比敢剛の者今年いさゝ城に名誉のちゞきうりとゝ記ちり

景行天皇社

長久手村小ぢり今三社明神と称ひ兼和四年の創建享禄三年及び弘治二年為氏の人重修す称社神明社白山社此　帝京雑に行幸しぬひ云ふ伝あちゞりもさゝきまゝ

富士社

同村東北小ぢりの小牧初ちゞめちゞく廃して今ちゞ一社のゝ

佛嶺

同村東にあり赤土の平山ゐて樹木ゐく古戦場ちゞ今俗馬立山と称ち

長湫古戦場　長久手村ふり其地某屋く岩作岩倉村にとう陣備の旧地我死首塚の古跡ふを留所多くしてわくくくに記しがくけるべきをとわく　織田信雄ぶ秀長吉伊勢の松島松坂の城を津川玄蕃允尾張の星崎の城を岡田長門守岡崎刈安賀の城を洲井田宮丸の三士いそに豊吉秀吉ふに筋橋しを君へ對し逆意のきぶくわるく武人告しうバ信雄ふ玄憤るを天正十二年三月三日彼三臣を伊勢の長島城中にとり廿不意に誅戮せるをより秀吉ふ及べる秀吉ふ大軍なりとも終に合戦ふ及べる秀吉ふ大軍なりとも　大神君信雄ふ入其子紀伊守之助及び其臣表武義ふ長一等戦死の地ふり忌憚基多けるバ止むるを好く見を略を　明和八年辛卯十二月南府の世臣人見赤林の両翁後来地図父子表三士の戦死の地れ事跡を失りんをと患へ共ふ據りて三士のしめに名を名及び戦死之地と聞て又遊長歌記を撰えて両翁ふ贈納む文長けどバ於れと畢に只赤林信之の詞のみを抄して末に載りり

長湫憶古　赤林信獅

於戯英武雄雄神麾毛攘敵天下帰仁　同信之

憶昔長湫競六師抜山覆世擁旌旗轡弓楚将走斜月硎鋭漢軍報盛時白骨風寒雲影暗青松歳盡暮烟垂到来今日何看處空有荒墳鳥雀悲　戸田壽平

義姉飄来日其鋒不可爭一戦斬三将千載裏威名　同

山鬱々兮水泠々松風猶作凱歌声

岩作村　和名抄に山田郡石作とあり今村名ふ古き地名ふり

石作神社　岩作村にあり今神明社と称ふ延喜神名式に山田郡石作神社本國帳に従三位石作天神と有ふ是ふり祭神建速須佐之男命姓氏録に建てふ遊長歌記を撰えて尾張連の祖神ふり陸奥の牟月定ふバ後花園天皇の正和年中に重修ふり

例祭　九月十二日　走馬と云ふ

富士權現社　同村小ふり文祢年中浅井助蔵の営建ふり毎社伊勢能部伊豆白山白坂雲奥寺朱島箱根等ふ祠ありて陸地基ぶ廣大ふり

久岳山安昌寺　同村にあり曹洞宗

天正十三年丹羽勘助氏次建立ふ

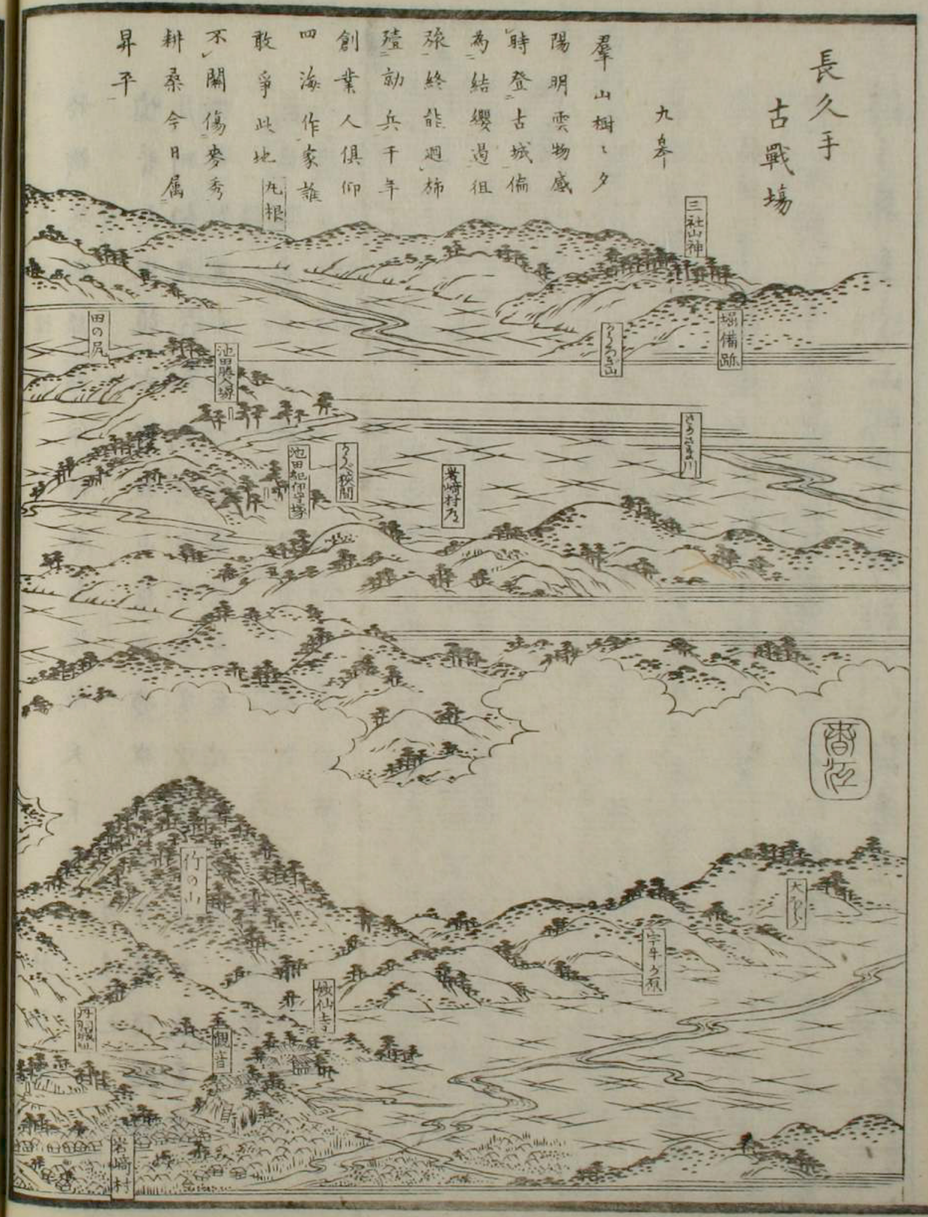
足山号ふ亀金山と云ひしぶ後今ふ号に改む南山ふり後に亀巌ふり多に香流川源くくくく清く来臭ふる山林の古禅刹之〇観音堂　なる古物ふて世にやざこの仮名と称ふ毎

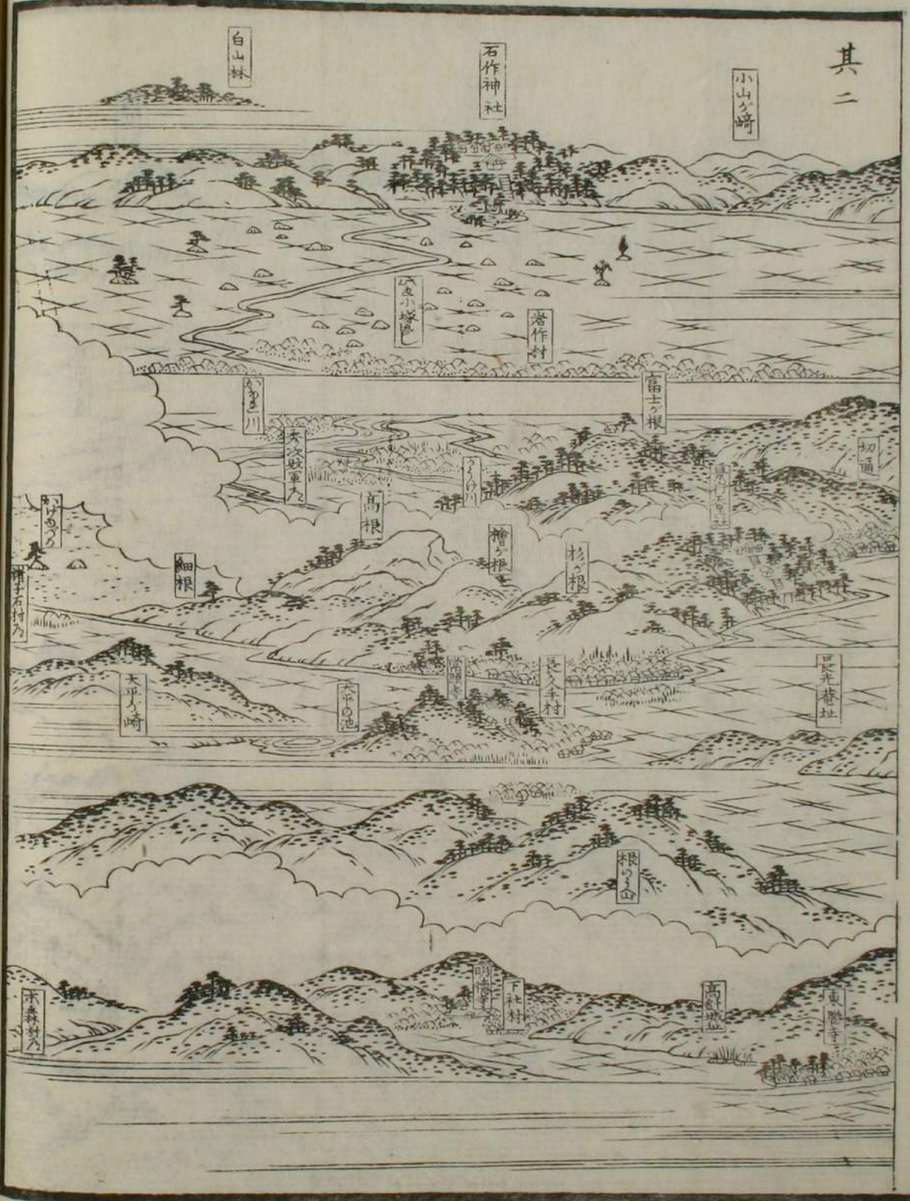
長久手
古戰場

九奉

羣山樹ㇾ夕
陽明雲物感
時登古城備
為結纓遺徂
旅終能遏姉
猶動兵千年
創業人俱仰
四海作家雖
敢爭此地丸根
不ㇾ關傷麥秀
耕桑今日屬
昇平







正月五日里童ありまりて
田打祭といふことを行ふ

御床机石 同村色が根の絶頂にあり古跡なり永四年福富祝義ノ建ル所の碑あり銘に徳風
偃草紫極轉星
と彫れりといふ

首塚 安昌寺門前にあり雲山和尚戦陣の時 神君浮腰作の里人と共にかきあつめて是を埋め自ら法号を授け吊いけるとぞ是を首塚と云ふなるに因て小詩一首を勒をも訪ふに泥牛争角
化城海木馬飛光旋火輪試問蘭臺雄闘品髑髏服上惹瞋聾

岩木 名詩村岩作村の地下に是を産ず本草ようふ石炭といふ是也凡そ地に入ること五六尺ばかりにして此物あり其質石よりは柔りにたよりは堅く木の如くにして非ず炭にも似ず色黒く木目ありて其木と通称をなす色黒く日を経て乾く時は軽くして更に量りなく幹の中に花開きくるくるれぬきの実を結ぶ民家是を薪に代へ炭に焼へて炊爨に供を卸す真に氣なれば府下かは是を用ひど灰に埋めて炭かは換ることばもたりる多し池田炭に十倍せり奥信長加伊和備豫かの諸君に此事を告

色嶺
御床机石
安昌寺

三虾簡齋

白雲擁樹似雄旗想昔
將軍此駐師數尺石床安
不動長為萬世太平基

席上次韻以贈當寺現住竹二子

我將西縛樹降旗文雅
場中有此師欲尚幕
前伸一讃樂只
君子國家基



…大同小異或ハ小同大異にして皆其名を異にする…
…筑前のフマズミ筑後のハイミのく…
本草啟蒙に諸名の異に…
扶桑木との名目を蒲山が博識うて何の為に…

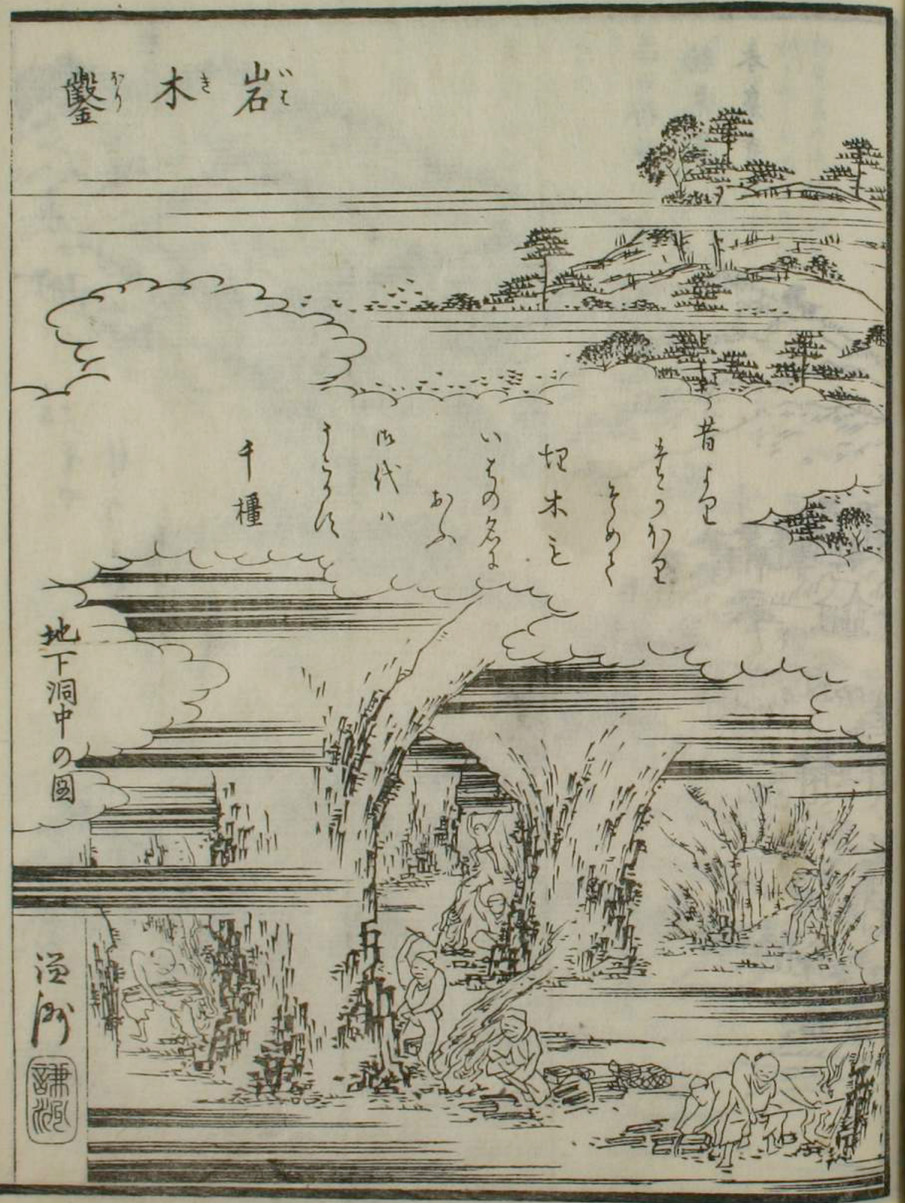
山口村　南郡のうち東の隅三河境の里也　和名抄に山田郡山口と…　毎年九月九日
同村田祈戸　此処　岩作　下男作　…
岩作　此十八村に三…
田数伊保の…
…より…
…の皇兄うれバ其国ふう且ハ…
…て組合のお来ハ元祖頃…
…若き者ハ川ふく水とびを…
…忽ちあやまちをうて大に…
…村毎のお会ハ双方…
…多神い次に…
…花やに…
…ふたしへ…
…ふ…
…ふ…
…ふ…

地上洞外の図



凡そ図ハ大ざつ地中へ掘り入ること十丈余り洞外ハ僅か人の往来を通ずるのミにして中四五尺ゟ六尺ゟ洞中ハ数十ヶ所掘りひろげて階(だん)数のごとく所にて柱(はしら)と焚(たき)木(ぎ)を置(おき)又六七尺ごとに必柱やうのものを切り残せるをかけさゞらにめぐらして横一ツ入ると三五町ゟ及ぶ内ハ又ゟ穴にそゞめ入れこゝき穴と口をかけてあり運送(うんそう)の仮(かり)小屋

岩木鑿(いわきのみ)



昔ゟそのまゝのこりて
切木をいるの名よ
四代ハ
千種

地下洞中の図

山口神社
物見岩
本泉寺



物見岩の絶頂ハ四方
眺望ひらけて海及び
美三の山くも波うけ
ゆく瀬戸の陶烟空に
ならびけるも又近江
又名古屋の金鉾と初め
犬山兼名川原長良川
峯毋の城なども近く
雪を踏ぜうゆく勢
奥田ハ海面ときに
取る斗りみえて
風景むよく実に
名區といふべし



山口神社 山口村にあり 延喜式に山田郡小口神社と云ふ 小口八山口の誤か 本國帳に従三位山口天神と云ふ 今八幡宮と称す 延祚天皇を祭神 もと此社多気神山神 祠あり 此村あり けるとぞ 例祭ありて山田五箇村の人々参詣す 風上記に編小ふるとぞ 彼五箇村の人々参詣にのりて池に漕て渡る 本社名ある由の社なりけるとぞ 又云 昔此池に龍住て 漫に人を害ふ 所のよし 一方四里許を去て未南方に当て 一方四里許を去て未南方に当て 一方四里許を去て未南方に当て 一方四里許を去て未南方に当て

教春山本泉寺 山田名八泰親三郎と称す 清和天皇廿五世の裔孫 泰親 永正元年 弘安四年 已来 連に顕密上人八代 此寺に来て法を説こと 数日 又 泰親 海に入て 死す 其三世大僧都顕密上人 此寺に来て法を説 伴顕と改め 同じく六年に南方を基とし 東泉坊と号す 高元二甲辰年十月廿一日 行年六十七にして 京を境内に武田信玄 時ど 置の地とし 仏殿へ古跡あり **本尊** 阿弥陀如来 慈覚大師の作 **霊宝** 十二光佛の像 永雪上人の筆

選擇集御附屬御影 顕智上人の筆 **光明遍照四句文** 日 ま 色架裟免許之 **裏書一軸** 真智上人の筆

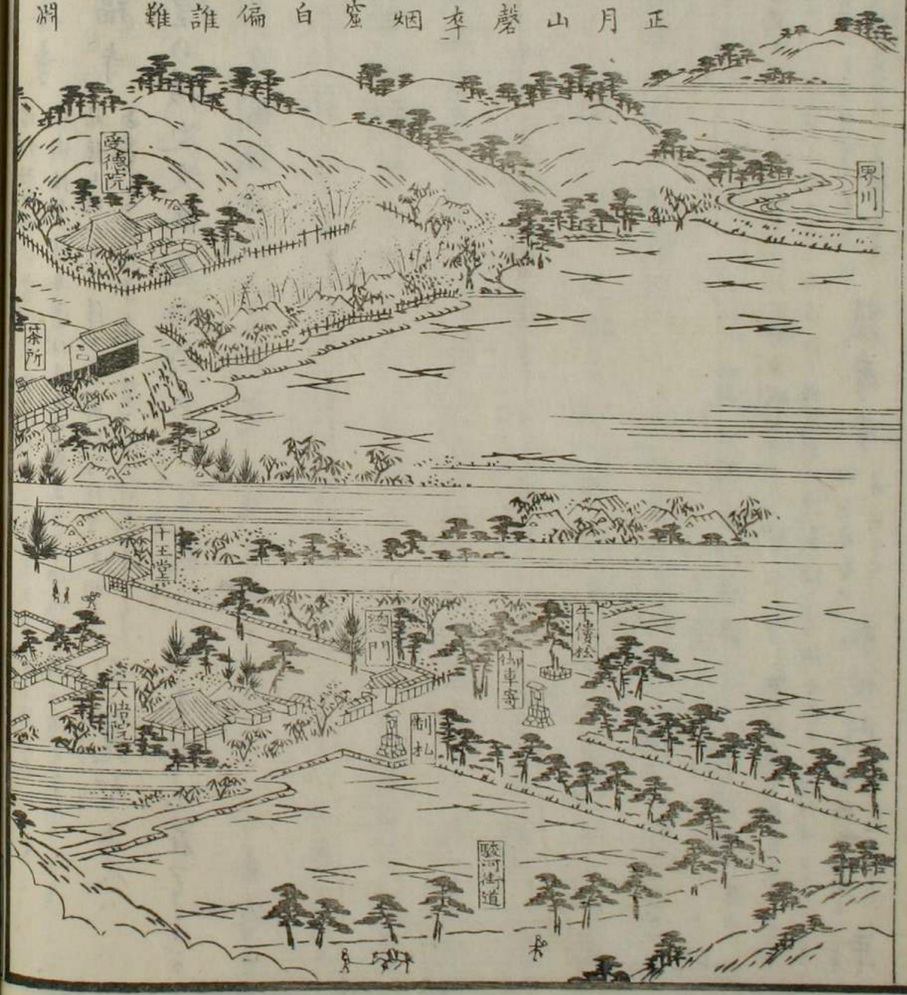
物見岩 同村の東にあり 三ツ岩峠と云ふ 此地より 東北の方に小蒼海と云し 絶景あり 永仁にうえもり武田信玄の戦勝あり 又山口渓八山もの山 山谷 刈尾三面の境 又山口渓八山もの山 岩石及び山の名に見えまた東の方 あり 春日井郡矢田川 此方 此方 此方 此方 此方

海上ヶ洞 同所の東にあり 岩石多く羅列す 山径の嶮岨民家あり 之ゟ 世介の風致あり 林中栗の樹多く見ゆる 山腹之 **汐見坂山** 北熊村の東の山より 此方 此方 此方 此方 此方

部田
祐福寺

玉壺詩稿
上方夜色正
徘徊飛塔月
登沙界来山
擁深林清磬
響天懸兜率
佛燈閃香烟
遠定驚龍蛮
貝葉翻經白
馬臺坐久倫
知不染境誰
言心地竟難
及

中西洪淵



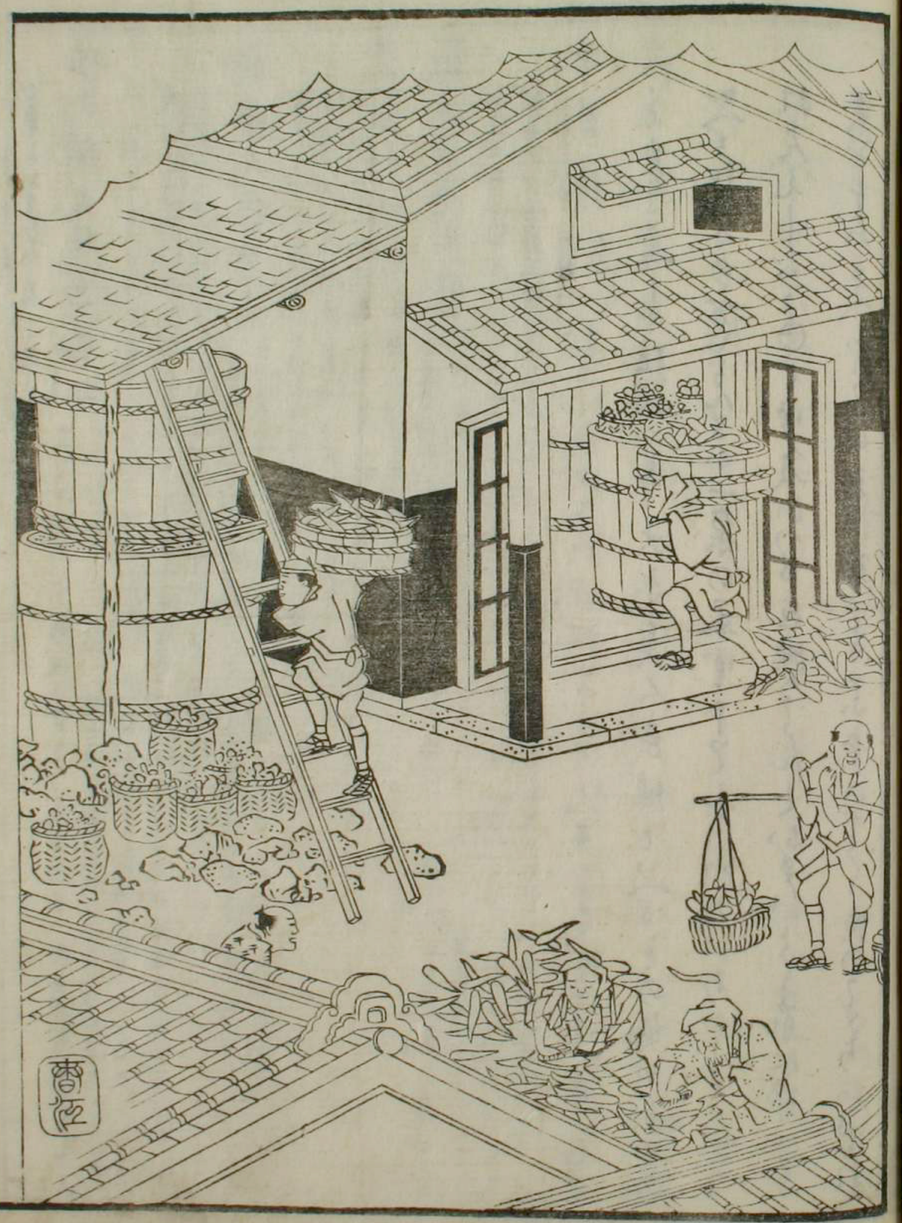


大政所どのおさうき奉上洛あつて禁中小宮仕へ孫みの二三年
ふるく下國ひろしぶがうらに関白殿と誕生あそばし小さう淺尻
に萱澤横笛山光明寺支院福阿弥好醫術能治服疾一旦
勅治御疾上賞之將使福阿弥有嗣子傳醫術乃賜官女於
是還俗移居中村郷称弥助官女已有娠後賜之云々とある
と彼戴恩記小さう紙合せ見えバ母ハ二条の時又にぐて南
玉にて又淪落の時ともに上京して生長して内裏に仕官し娠
娠のころ福阿弥に去られて南國小牧山にて秀吉公
と誕生あそばしぶるよし又知音の説なり
國の俗伝扇あそばし今宮うそびて南村浄元寺に生長あそばし又再び
七本松 同村の西にあり村むら淺次うれど旺ふる淺説
並ねれのこまるうしとぶ
佐久間委蕃允盛政宅址 同村にあり先祖三浦義明の一族にて安房國佐久間の庄を
ー代ー領食邸に仕へしが中世本氏をはなれて後に移住
ー久兵衛盛次に至りて織田家に仕へ柴田勝家の孫と妻ー
もて娘男ふたりぶ勝家盛政の時六條河原にて誅戮せられ其孫世の中
とめくらまし

門外にあり今 関伽井 寺松一株殊勝なり 達者なりて登山して印を結び呪を誦せしかば天泉忽ち湧出なり今に湛へたゆることなし井のうへ古松ありて世に臥龍松とよぶ 塔頭 大悟院 受徳院 孝耳院 法性院 ありつゞく八院 御器所村 府下東南の近邑にあり東鏡の文治六年四月十九日條 大神宮役夫工米地頭未済の事ー御文字を賜はりしに尾張國松枝保御器所長包庄と見えたり建久三年十二月十四日一條前黄門書状参着以て空遺跡のうちに尾張國高畠庄器所松枝領と云ふはこれ也 瑞雲山龍興寺 御当所村にあり曹洞宗春日井郡大幣村福叢寺末寺邑の地を依て今大字法名龍興寺廃半入玄心居士の創建にして卍室長吉大和尚と云ふ寺甚多く南村ふも瑞元山宗因寺清沢山浄元寺等ふたつの末寺山門及び本堂に掲る所の額ハ是等化の門人心越禅師の筆なり 本尊 釈迦の木像 卧龍梅 境内にあり依て今大根元のこと 八幡社 同村にあり富士白山両権現及び熊野合祭八先義勇等を依て今大社なり 八幡社 八幡祠天王祠水上祠天神祠縣祠ふたつ 祠官 安友氏 御所屋敷 同村にあり村萩中納言の居住のあるよしと伝へれど公卿補任ふの古書に さる人見えず但天正記ふ太閤の母ふ大政所の父ふもぎ中納言とせしことをのせたれバ或ひが村雲とふ所に假居せしふ又ふやうこやの月にむかしをしのびてうたよみしこともあるよしなれバ大政所の里家ふもあらんなど大政所の里家ふもあらんなどいひ伝へしハ左所ありつべし 天瑞寺 大政所 同村の人なり太閤の防母ふ天正二十年七月二十二日薨じ天瑞寺殿贈准三后従一位春岩桂公大禅定尼と諡ありし 天正記に

沢庵漬

御菜所村及びその村〳〵にて毎を製す年中日〻お膳夫買ふて府下に鬻ぐそも〳〵大根を東白と称して宮重方領その名産とハ更ふ別物と九を煮〳〵そ十月のまり翌年夏の正月まで日〻仕込の大造ら三回とふ〳〵知べし





小車ハおりくの家とあるべし

佐久間大膳亮勝之　盛次の四男なり盛次の事蹟ハ古城の條に詳なり勝之ハ天正以来武名赫々たり通稱の何也もて七千石と賜ハる寛永十年十二月十二日卒去す墓ハ当村佐久間氏の墓地にあり

慈雲山善昌寺　石佛村にあり曹洞宗庵室所村洗兵寺末境内数本の老杉ハ形こまかく今絶たり石佛村の名ハ此寺に因て古杉一株

高田村　文和三年四月廿三日奥田清神領目録に愛智郡南之田郷北之田郷と見えて村名ハ此頃より始まるか

龍王山海上寺　当田村にあり真言宗高野山弥勒院の末寺なり縁起に文亀永十六年九月一日中興開基の園梨法印滅去ハ天文廿一年九月廿九日なりと

牛巻潭　同村にあり　むかし弘法大師の作りて玉眞佐うり等の報恩のため栗と捧げしより名くと

むかしこゝに弘法二年大旱真人武雄と云るもの奥田糸宮の東の方とある小一朶の黒雲下りふられしにわやまきいりれ及びつる巨蛇うんとおめいてあれにゆううろ矣とまどふさま〳〵ふるふ素のごとく蛇のうろにかくれ

龍王山　同村にあり　文政大河の作りて玉眞佐うり等の報恩のため栗と捧げしより名くと

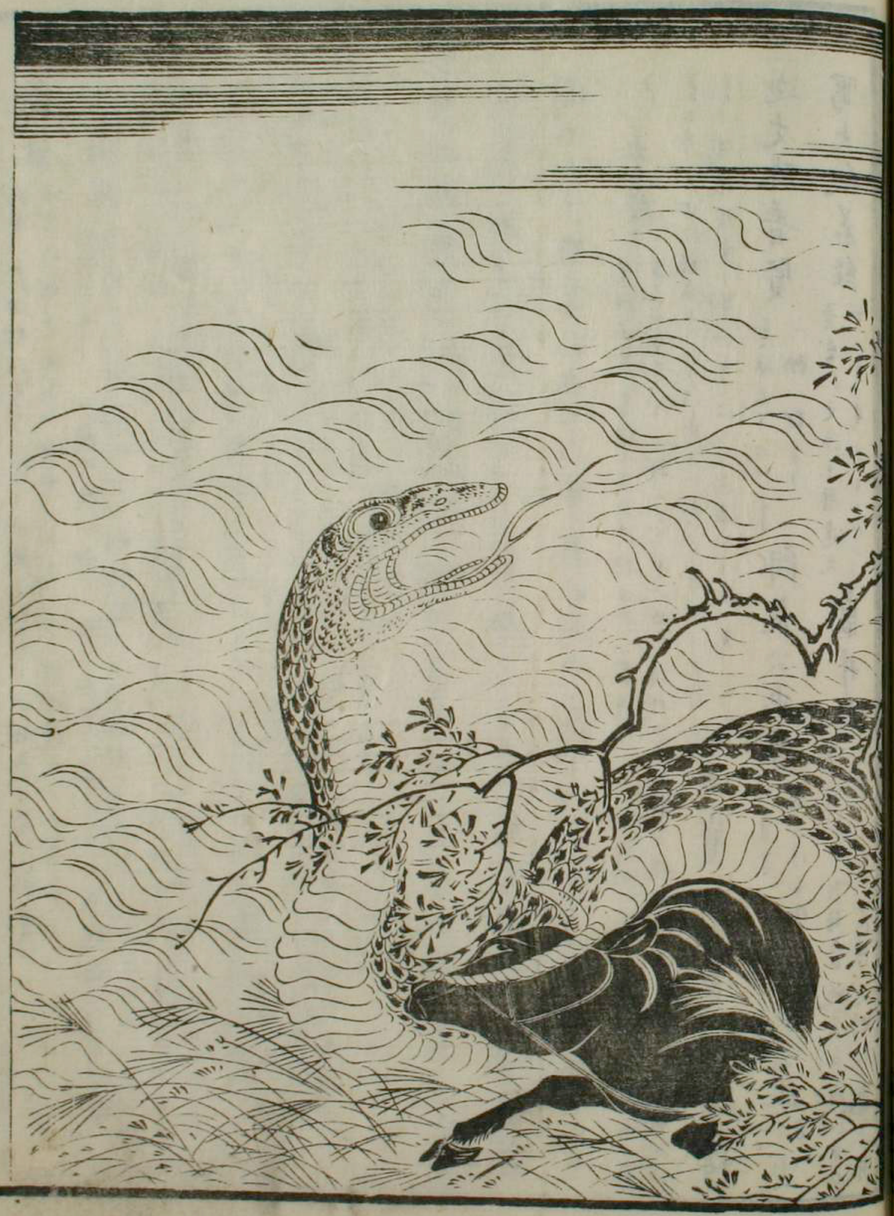
牛巻潭　同村にあり　むかし弘法大師の作りて玉眞佐うり等の報恩のため栗と捧げしより名くと

高田四郎重家旧宅　同村弥地にあり　文治六年一月廿九日の記事も見ゆ国衙人重家重忠父子の一族なり

大喜古城　大喜村の西北の方にあり　大喜村の古城ハ三所あり弥田四方の城と又田先氏の居城と又大喜古城と是なり古城ハ天正の頃ハ水田子八氏上の居城なりしが後ハ水田子氏又ハ部氏八奥田神官大喜五郎左衛門尉宗弥の居城なりしと云ふ

増益山大喜寺　同村にあり　又奥田の遥拝所あり

地蔵塚　同村にあり　老杉樹のこれあり　大道法印と云ふ大徳の墓なりと云ふ




牛巻潭
古事

地蔵池　北井戸田村にあり〻池と名づくるも山脈村に無し井に名づくるの一つ山脈村に無し井に名づくるの一つ

津賀田社　田村にあり　仁徳天皇と称す　伝に若宮八幡と称す　本國帳にのせず　従三位四年伏社と混合にて一つ社となり今称す　天治年五月十三日勅号選旨のよし　其社地の北に　神明祠　諏訪祠　ともに境内にあり　神主　亀井氏　別人なし　元年之　亀井山龍泉寺　北井戸田村にあり　曹洞宗　抑南寺ハ行基井の開基にして真言宗　其後衰廃せしが妙泉和尚と云ふ人の開山となりて今に連綿す

○本尊　某仏の来迎　寺と名づく　三神と云ふ　長元井戸田に補居あり　後櫻陰堂と号す　迦文珠普賢　三軸一対　師長公画像　探幽画　師長公記　二巻　古写大般若経　奥書に文治元暦建久　亀井水　境内にあり　枯れず　又例に亀井古井

重清の宅址あり　近年　府下音楽者流寄りて師長を神廟を創建す

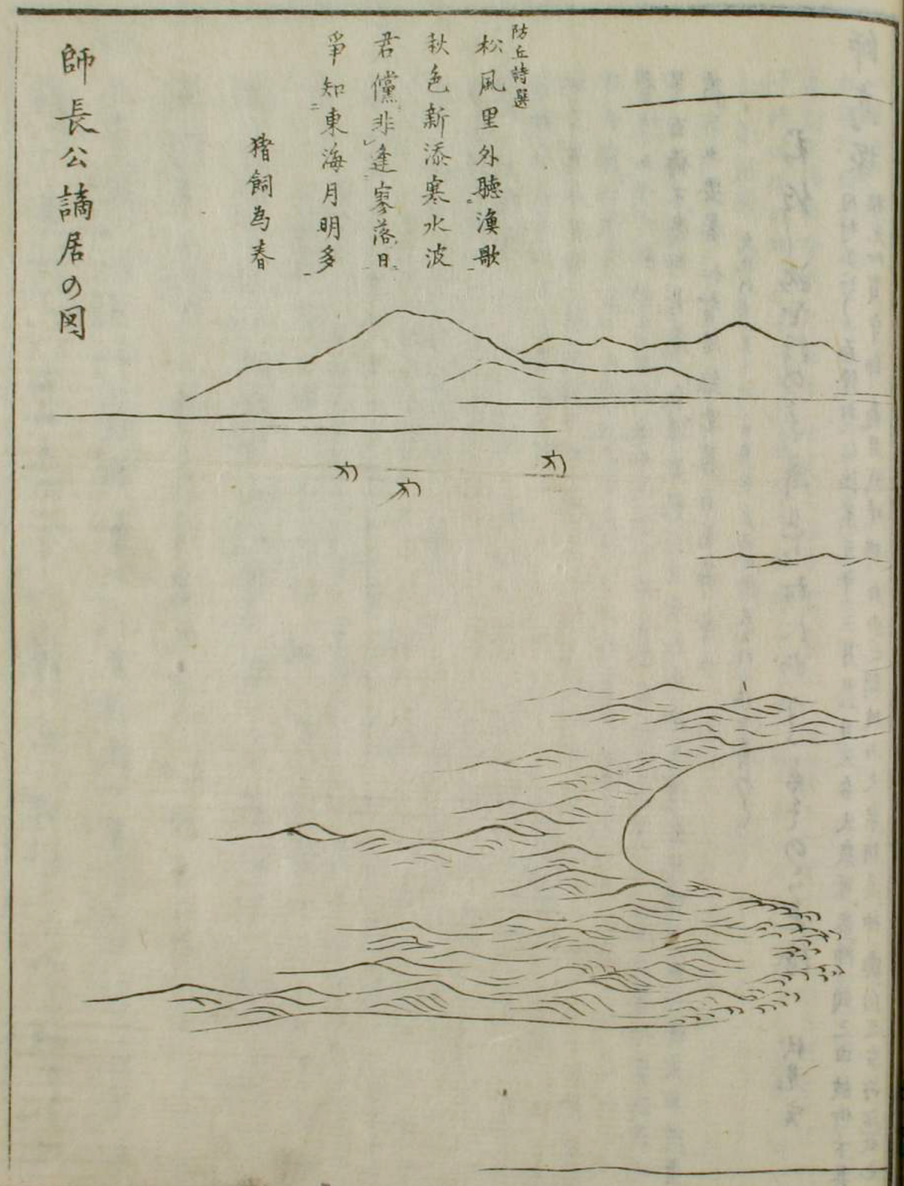
太政大臣師長公謫居の地　同村に　源平盛衰記云　妙音院太政大臣師長を参河の国へ流し給ふ　中略　比ハ霜月廿日余の事なりけるに　照月波も澄渡り　二子里外古人心情の空清き川風　想像猶の哀さ最深し　去程に尾張の井戸田の小屋の者好み保元の昔を西海七佐の畑小遷されて愛別離苦怨憎会苦の悲と会ふ　東関尾張国へ流され　大臣波磨れ　元和十九年の秋九江那の　拠覚一朗月と共に浦吹風よ　等閑に日を送りぬ　其後南出井二宮熱田の社と修し

塚田神社 世に長森八幡と云
龍泉寺
師長公屋敷跡
師高兄弟塚
牛巻潭跡
蛇塚





師長公謫居の図





七十三歳源忠孚画

…ふり年經る表の木のもとに…
名を添へ和光利物の標繩に引き標繩の兒小角に風を孔…
根何事もなくても非ざる氣色うち 中略 師名を改めもとの…
納受の如く法施をも…
云々 治承三年小…の秘曲小 婆田大神の感應空…
家物語古今著聞集十訓抄…
…小式部内侍と…
説話…の系にあつて…
樹の下小…
長賴長子幼名万壽藤原保元之初坐父事流于土佐畑長寛二年赦還仁安中大
納言萬左近衛大將世称土佐大將治承元年拜大政大臣叙従一位三年平清盛怒
廷臣圖己流嵩数十人師長流尾張井戸田莊髪改名理覚四年赦還京師逮久三年
薨年五十六称妙音院師長幼而頴悟好音律最長琵琶及箏皆極其奥祕嘗諸國兄
旱百禱不應師長奉勅彈琵琶於日吉社澍雨立降衆皆嘆異称曰両大臣所著
有三五要畧 仁智要録要畧 白馬節會抄
文化の十四年 …月井戸田の…

師高塚

…村小字 百練抄に治承元年三月廿一日天台大衆可レ奈二陣頭之由被仰下其
根元加賀守師高…代焼…白山之間彼山大衆相具神輿向天台訴訟故也

四月九日加賀守師高配流尾張國射神輿下手人六人禁獄六月九日流人加賀守師高
右衛門尉師親左兵衛尉師平等被誅件師高在尾張國入道相國仰彼國家人等令
追討之相二合戰一死者多々之依レ之平盛哀紀に従五位上加賀守為子孫在所代
々經彼國の白山の末寺と焼拂レ一揆蜂起之間尾張國に流罪せしより所以平師
清卷云南國の衆人よ合レ及び武士をも召レ不レ一返討あるべければ所詮しかじ
かるべけるが返らん今銭して終に討死しうしを呼ぶにうしみ一萱津の妻女
も屍ヒ葬りて傍を清レ返禍を加へんうるう首とばし無那可取て六波羅へ奉る者共師
の家のこと是をも門女平家物語小八所收のを考ふつゝ此納けるぞ多想うるとありていふうの是國ある
並べ拳て後考小俟ふ

剣塚

…村にあり…ある郡の住人拍谷為重武村に偶居レ…ける死後ここに葬レ
其墓曽佩劍ともに埋レ…為つけレ…
…馬レてる者あれバ必為ら…ゆえ後世主像と同村長福寺に移レて本尊と
浴地蔵

…山湯村にあり…地蔵院の…とする長五尺の御像小レてこれの作るものを…
…年中今の地小移レ…今も村戸部村…
…阿…くるゝ…光善一人来レ…等像…泥土に…
…告くいふに…村…
…せふゝ…灵驗他小…
…ハヤうつゝ…
…ふ…

仙人塚

…村小字…人…人従昔南部小一人の方士あつて…耕作でいと…
小ひとやうの天帝我と云レ…ハ永く…と告ぐるに…小或日友…
…に投…と…て法人…と云ぐるに…て…跨…白日に昇天せり
…て小ふき丘山と人云ふ俗…樹木茂…小湯と…あびせ…ハ…治地蔵と

蛇毒神社

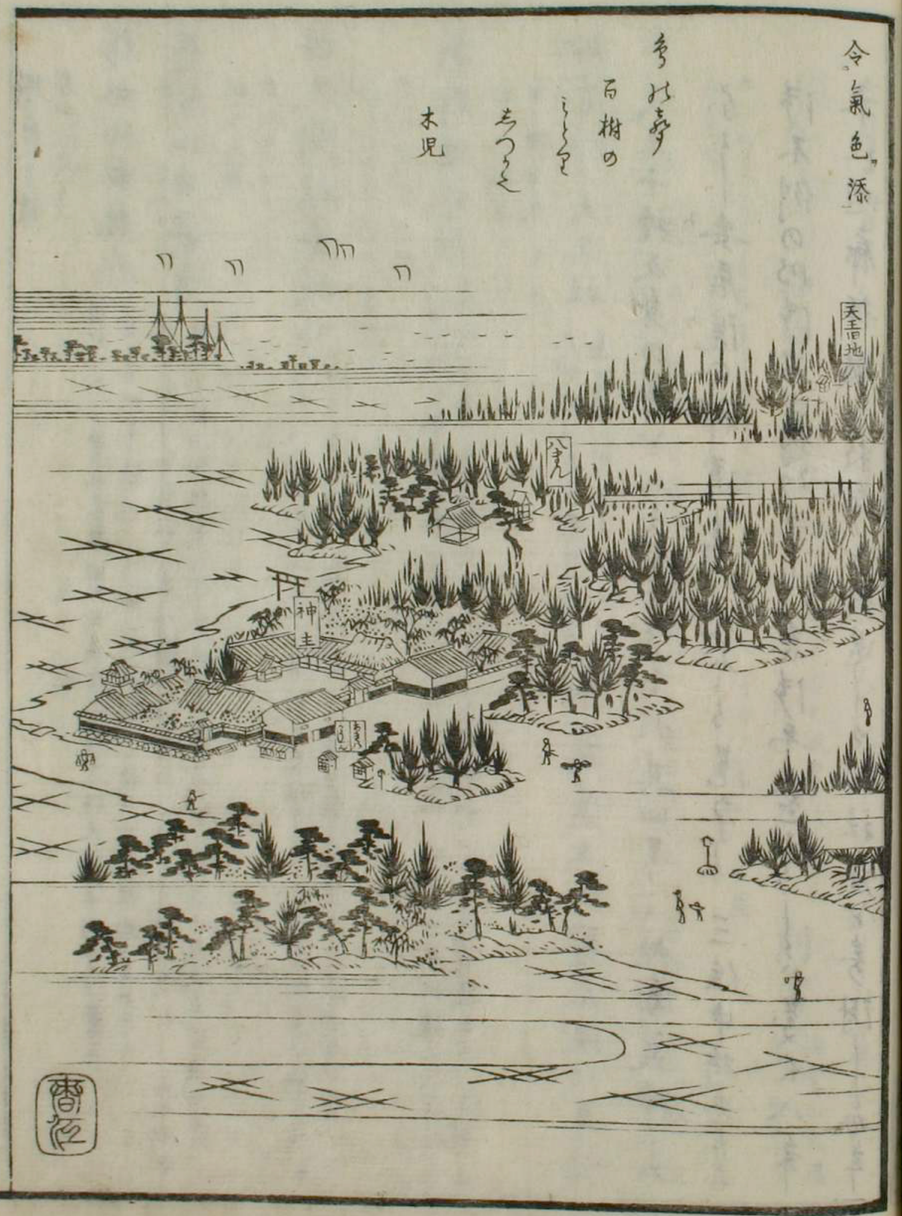
卢部村眺望

熊坂台洲

曲遊紀行別錄

道周試南望浦
口出閭閻蜑戸
多資驛漁家竿
葉鹽秋雲籠線
岸寒樹擁青帘
漸見斜陽射處





令氣色添

ちはやぶる
石榊の
しるしを
ちつくと
木児

[illegible]
る山と云う

梅林山黄龍寺 同村にあり曹洞宗換田代円通寺末境内に天神の祠あり菅公真筆ぜう像ありて世に名高し一通に石古代俳文あり

眉間山白毫寺 同村にあり同宗同寺末境内に桜樹山と称するあり見むし大松林あり物二上洛の時休息あり一地うねうねとうつくしく又依久うち信盛の営の跡内にあり

佐久間信盛城址 同村にあり人伝説へ云う信盛入城を東西に三家老永田治兵衛屋敷十町余を隔ぐ至妻沼と云地のこと今浄土宗宝珠山安養寺の境内となる

熊野權現社 同村小字創建の年記詳ならず按ずるに社伝へ云う当社は慶長年中より遡ること修理をかへ一村の梅孔あり古頃より社ごとに○祠あり

蛇毒神天王社 戸部村にあり素盞烏尊戸部天王と称す 如意蔵王陀羅尼経に牛頭天王十種及身の号とあるより甚四号と蛇毒気神とあるより安居院の神道集に見えたる是なり 三位中将忠吉君清不例の時祈祷に忽清平全あり又八年本社廻廊拝殿ホ牧宇と修造ありし社産を寄附し毎年六月十五日の祭祀をうけ

○神寶宝叡一振

相摸守右京政事作之銘

西にありて古家と華王院と廃荒せしを文永十一年 忠吉君再興ありし 十一年二月の時寄納

愛知塚

同村にあり往昔高那の領主義清斯波家に奪われて世に因那の里俗の称ありし義清長禄三年己卯九月九日波を法号入道義永則ち墓寺元大櫓那うち義清の子孫今も称名を為し通称

別當

海雲山天福寺一町うち

祠官

金原氏

戸部新左衛門豊政

同村の人にて甲陽軍鑑に信長公甲州征伐の時豊政と云もの降人となりしとあり又信長公より感状を賜りしとも云伝へ今に車楽と称し壮麗他にすぐれ望寺のことなり古家と華王院と廃荒せしを文永十一年 忠吉君再興ありし

星大明神社

星渉庄本地村にあり天津甕星神と云ふ又武甕槌神とも地に祝ふ一まちに忽ち七里先と云ふ七面地と云ふ地中に翔まりしと云ふ

星の宮

〃　〃

星浦北浦うつろう星宮
社辺にすゝて伯て浦竜
の浦を
　　助友
着る衣
きせ波うつろ
うも
浦うつろ
綱にうひく
伊勢の浦



そゝく古川の水より板うつ利　大年

伊奈突智翁社　田村にあり南村地を来る伊奈突智
翁八代村に住とやきうつくうつ

神輿塚　田村にあるむう将門退治の時新に
奥田の神輿とうにうもう古塚うつ

星崎古城　田村のうち田子屋しき所にあり城主井伊掃守善周天正十二年三月より山口半左衛重政信雄こうう一万
石と賜りう伊勢国安濃に移ううのち廃城こうう

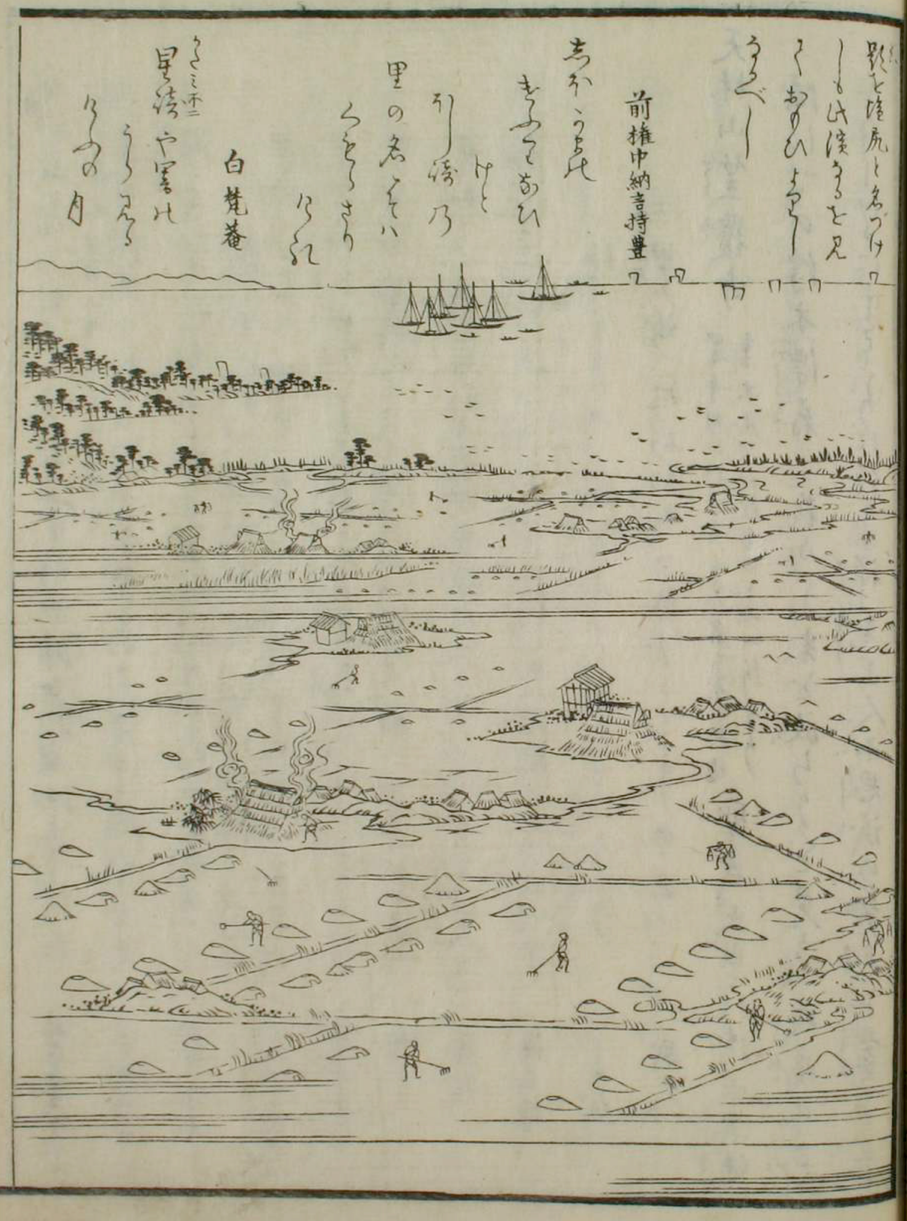
名産前濱塩　田所の海浜出て製するあうう
う及び風景の佳うるも田とうくうくうべし

星崎　星浦八景のうて山浦戸部の釜寺本地薬井井毛楊村等九ヶ村沿
う庄内うう夫木抄に星浦尾浦こうくうう

引さゝやうつろう江漁火のかのもうぬや思ふらを　仲実朝臣
明日香井雅経
和田の糸ゝをといふうのあうさき　参議雅経
富士紙切
星浦や奥田のうれそれ
受富士礼
月就うう我もむ方もうう秋小星浦ふ思ひおり　雪孝
文曾九年七月
七日七首次合
入道道永

星崎





前権中納言持豊

白梵菴

[illegible]
[illegible]
[illegible]

笠寺縁起





観音塚

仁王ヶ池



素堂

名所小袖
望ちや
夕日こぼるゝ
晴ちくれ

舎羅

月
望ちや
まに多
ゐく
通りゲ

淋に紫昌の灵地ゝるまうさゝも多き寺ゆの田畠樊田の神ゆ
に混じはべバ沙門阿頴及び念阿弥陀佛　宝揚門院の皇后に
まして称禎四年十二月その娠げんとそふの解状とまり
しうバ忝くも　勅裁と蒙り暦仁元年十二月功終がむに仍
せ堂宇を再興し社役臨役を免許ちゝ是迄荒廃のうち
教生を禁断ふとも令ぜざる　廳の沙汰文等教通今に訳来して其禎の解文暦仁の院
裁後のも載せて　尾張國星前笠覆寺建長三年辛亥五月
廿三日阿頴記　霊寶　檜笠　此笠も縁起をも後君書
のゝあり　本尊　十一面　観音　鐘楼　境基古く四面に竜虎獅子と鐫る為に
年中　鶏生法螺　大塚宮　同傳来の書翰
松虫の鈴　大定銭　四國石　地蔵菩薩　弘法大師作　出山釋迦如来　牧渓の筆　不動明王　北典司のま　塔頭　普十二院ありしが廢して今東光院　泉福院　西福院　天神祠　東光院にあり　所
慈雲院宝壽院西方院の古坊のこと
半紙入通小雲の画おありてそれに添ふ　天満宮の画像ハ山口
藤原安長暦應三年庚辰八月八日　近江蒲生郡菅田神社神主左近将監
暦応永八年辛巳八月十一日在大風憲高木枝不思議

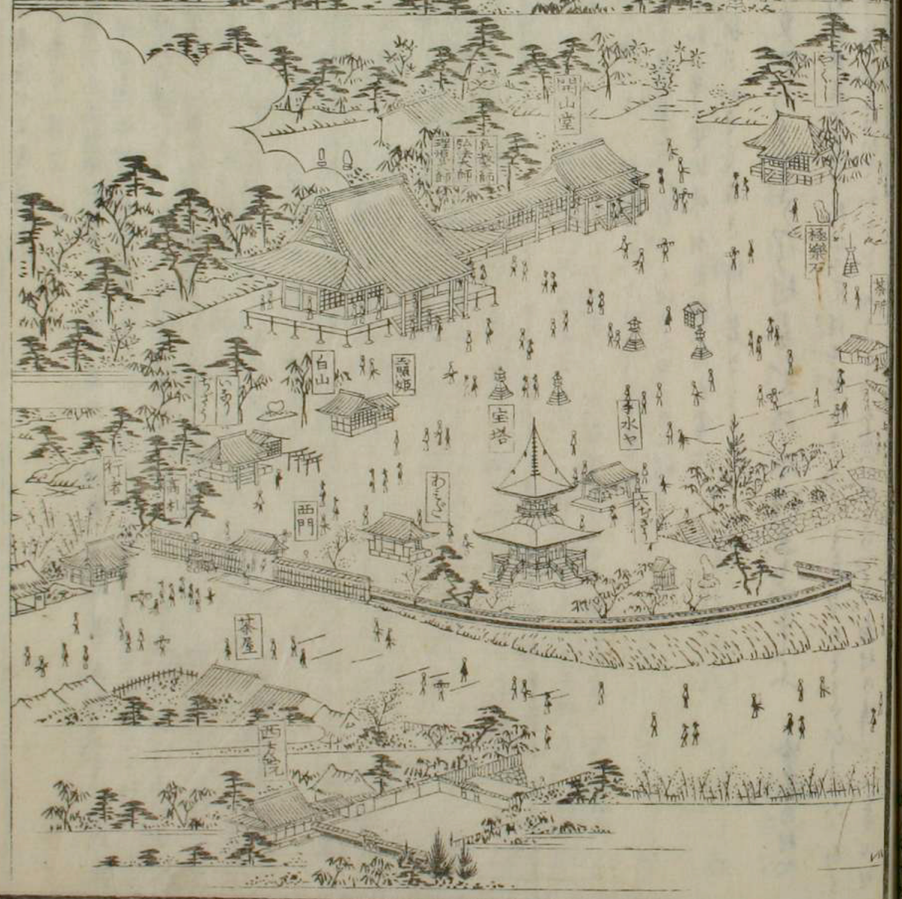
其二

新川

新川集
高樓百尺縱登臨
畫裡江山矚目深
野水綠藏蓮
葉舟松風自
和海潮音雲
開紺殿迎紅
旭雨霽蒼苔
遍綠陰更見
莊嚴踰異日
天林遂不讓
祇林



佐野紙盃
尾張八景
笠寺や
泊船集
笠寺や



也と云えり小雲八秀次公生害の時ここ

伝神像八秀吉公より賜へ陽ここ

天白川

同村の東にあり水源柏田村ここに流れて海にいる海辺に橋あり天白橋という

ここも西の方里餘の村ここを流れて海にいる

徳願塚

同村の南海道の傍にあり

ここの里中に休息ここてありしを又ここに彼が放火せしと紛い統にこれとここへ

て寛に流へ死刑に所ここへ実ハ徒刑が不憫にあらざれバここ哀悪なることなき也ここ流氏墓を

築きて弔いここいい伝へ今ここ塚をやむこの氏塚にいの是ハ必誤あり又同村に観音塚あり

山口修理進盛幸城址

同村のうち寺跡ここあり大内周防持分多ここ羅持盛の

むこここして寺領ここ漫され云ここ

男子ここ孫ここ里俗云に来居ここ来繁ここて

氏の城跡ここ伝ふ地あり山口氏の俗ハ多ここ羅世系譜ここ書にくくここの也て氏あこここれ

城主のここ洋ここ其記伝世の作ふくここきここ多くれバここにあこここ

成田氏城址

村里家村を抽ここ

の筑書のここに長享二年戊申九月廿八日成田縫殿助時重が寡迎

あり又摠見記ホの天文二十二年四月赤塚合戦の條に山に九市二市が是恰大将成田孫六

成田助四市ホ云々これバここ

西の切ここ云ふ所に山口弥左市ここ城址ここ

ここて民族の人の在ここ

大雲山醫王寺の境内ここ

ここの氏家にここ

櫻村

和名抄及び文和三年奥田兼行ここ

愛智郡作良ここ

敬称ここ

櫻田

村の田園引万葉集にここ

村の南にここ

成田氏城址

村里家村を抽ここ

の筑書のここに長享二年戊申九月廿八日成田縫殿助時重が寡迎

あり又摠見記ホの天文二十二年四月赤塚合戦の條に山に九市二市が是恰大将成田孫六

成田助四市ホ云々これバここ

西の切ここ云ふ所に山口弥左市ここ城址ここ

ここて民族の人の在ここ

大雲山醫王寺の境内ここ

ここの氏家にここ

櫻村

和名抄及び文和三年奥田兼行ここ

愛智郡作良ここ

敬称ここ

櫻田

村の田園引万葉集にここ

村の南にここ

山口修理進盛幸城址

同村のうち寺跡ここあり大内周防持分多ここ羅持盛の

むこここして寺領ここ漫され云ここ

男子ここ孫ここ里俗云に来居ここ来繁ここて

氏の城跡ここ伝ふ地あり山口氏の俗ハ多ここ羅世系譜ここ書にくくここの也て氏あこここれ

城主のここ洋ここ其記伝世の作ふくここきここ多くれバここにあこここ

徳願塚

同村の南海道の傍にあり

ここの里中に休息ここてありしを又ここに彼が放火せしと紛い統にこれとここへ

て寛に流へ死刑に所ここへ実ハ徒刑が不憫にあらざれバここ哀悪なることなき也ここ流氏墓を

築きて弔いここいい伝へ今ここ塚をやむこの氏塚にいの是ハ必誤あり又同村に観音塚あり

天白川

同村の東にあり水源柏田村ここに流れて海にいる海辺に橋あり天白橋という

ここも西の方里餘の村ここを流れて海にいる

伝神像八秀吉公より賜へ陽ここ

ここの氏家にここ

ここて民族の人の在ここ

ここの氏家にここ

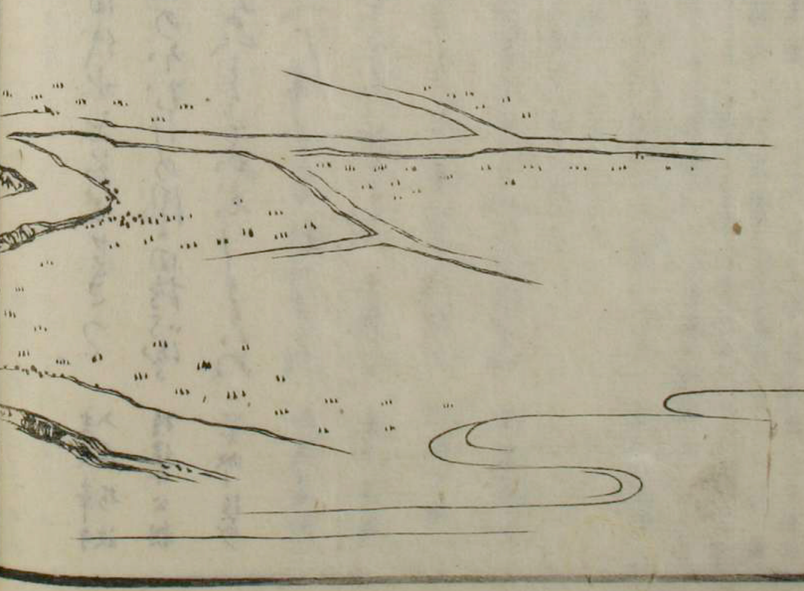
ここて民族の人の在ここ

ここの氏家にここ

ここて民族の人の在

櫻田の古覧







高市連黒人

万葉
櫻田部鶴鳴渡年魚市方
鹽干二家良進鶴鳴渡

櫻人

催馬樂
佐久良比止曽乃不祢知
知女之未川太乎止未知
川久禮留美天加戸利古
牟也曽与也安須加戸利
古牟也曽与也古止於古
曽安須止毛久波女於知
加太尓川未佐雷世那奈
禮波安須毛佐祢古之也
曽与也佐須毛佐祢古之
也曽与也

寂室録　鳴海浦　寂室

幾人東去又西還潮満沙頭行路難會得蓋流那一
句何妨拈過海門關　山崎闇齋

再遊紀行　鳴海
矩堰長亭莫興傷家鄉西望思悠々候蟲鈴韻風濤
響蕭暮天寒鳴海秋

東行雑詩　鳴海
水長癡絶更悠々鳴海潮隨波遠浦舟滙灘乾坤浮汎
處此身暗入岳陽樓

江南紀行　鳴海
經過鳴海汐馬踏曉天霜潮凋大津渚家臨江浪傍
曉潮白浪蹴汀沙歸帆遠連夕日斜百海高風鳴此
浦今知眺望在漁家

古今六帖　小野小町
いそ[illegible]

後拾遺　平岩仙桂
[illegible]

[illegible]

增基法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新後六今　百首ゝまて
雪ふりつゝ松風やさむく吹ゝ
　　寛永十七年内裏三首ゝ会に浦雪
同　おとまても神はふりつゝ雪にうつの浦風
　　宝治百首ゝに漏る
同　おもひあるむしもなきつゝ
嘉勝四天王院障子和歌
きくわれもうらふれうつの小夜ふけ
同　わたつみやいつよりまかふ波の末の松風
建保三年名所百首
誉のとも里のとまやのとまりつゝ
同　ものおもへはなてもふけぬ
同　たよりこたへもやうみ
同　おのつゝ風をもとめて
同　人ゝうらなてふけ夜の月
同　いつこふいつこもをとふらん
同　隈ハおのゝきぬくるこうらつゝ
同　神のるこゝろをいは

前大僧正義運
後鳥羽院
寛永十七年内裏三首ゝ会に浦雪
前大僧正義運
後鳥羽院
寛永十七年内裏三首ゝ会に浦雪

鳴海潟古覧

野村正之



明日香井和歌集　あくるよりてふ　此詞の次第
志賀にてはよそにうきの浦とうを浦うを連れいろきてそふ
家集
いそつたふ小舟にをくるそてみちる浦うを波をちうつく
家集　千五百番歌合
夕日や秋に来さむにるそ
千五百番歌合
松もせも今は嵐よるそさひしき
堀川百首
うそそそ秋うら波やそうんあ
白河殿七百首
浦風よ雲もわら波そにをき秋の月み
亀山殿七百首　名所月
うそうよ月は名残ふるそそ夕
千首和歌　羇中述
うそそそ夕の干潟もそ人いそうう
詠千首和歌　海千鳥
風さむ夜の干潟にあそ細うれやそ
久安百首
袖はそ夕干にあけ細うれやそ
宝治百首　後月
うそそ波うれ月をそみつくいそ秋乃み人
松葉集
行的乃新夕見にうそいそ
名寄
むらもをうそれ里に来て始恋しきなひ称とそう

法橋顕昭
夢大政大臣
浄意法師女
平泰時
覚盛法師
法下道恵
沙弥蓮覚
京良親王
権律師法印
実融公
後水尾院御製
為広
大納言光英

今撰和歌集　旅宿の心
うそみそ夕白さむ森夏
海辺集　海辺日暮といふことを
あふ小舟日暮ぬれようそ
新和歌集　旅夕
明はそ夕の干潟のふ細行小舟
臨永和歌集　夕月
夕月はかうさん明海沖
玄玉和歌集　加茂の社の歌合に
うそそそ夕もて始み
為家和歌集　恋の心
うそへそそやそそのう
原永二年十四首歌合　海上眺望
潮かしそうや山のそ
李花集
明そ夕の干潟にかみはそ
草庵集　舟あるき夕ひやそ
雪玉集
浜ひそれそそうそそはいよう
玉葉集
玉ももかふうその浜ふる志賀の
勅撰千首和歌
うそへそやうん人公
采葉和歌集
浦波のふもとうにうそ注手

さそひていくらくふるさと心ある友ありあ郎　大納言光廣

かへるさや月ぞるるらめうつせみの雨らくきそら　内大臣通茂

ゑあきく秋ぞるるみの渓嵐松波のまふく志をれてをゆく　良恕

たのきし築いけふふるみくこそにくせや　左中将為綱

叩くみる敷もおくれく叩ふくこかをれの末の露乃下仲　按大納言為定

廿一代集よりも一名最勝四天王院障子和歌建保百首夫木抄六帖後会千首百首ニ新続古今集ニ多数ありまた

これを載せず

さくるの日記

尾張のふるみの浦をるに夕くみちふこうてふ今歌者くむもちうけん之渡

こちきなくともきくとまひきぬく　若狭孝標女

その宿をこちお渡行におりむくおるる且る旅の空れられへすうにに倚てをるくみ

るさくに日をへてをくるくるいそのこちをるき

きしの日記

をるに姫子のかくれいさるうくひくをゆくくしも渡るいく

おりくきくくもうて好もきうへかけるる花して

渡なる叩ときさるみ世の中に渡らんとおぼきうと　阿仏

おりくこれかうふつきそ此上比うんとおりえ給ふ

朝日渡るみの上比渡こえて高さへもにくくそうる　雑世々

又おりいつけ侍る

そのみ我おふくのるくるみ

るくくくくく

高き浦風さむくなるみこをきき渡すれ秋のくきハ　堯孝

るるみて

初るくるの浦よみをきちれつつこの神と修て

廿二日に侍浦土孔家居をるく

るるみき汐手におる渚生のみれ宝ね宿くもか　元

かへるる里ハるるたるくく沖初ふも語のむく渡　原持資

おくるに行れてるもれて月ようるみのうもつるう　修正尼法

山のまれうをもるかとみて

るるく覚えてるた

里の名ハ夕くるるき小沖の波るくくくやこんといふん　沢庵

[illegible]十七日[illegible]

いつくしも[illegible]

[illegible]

深秋や[illegible]

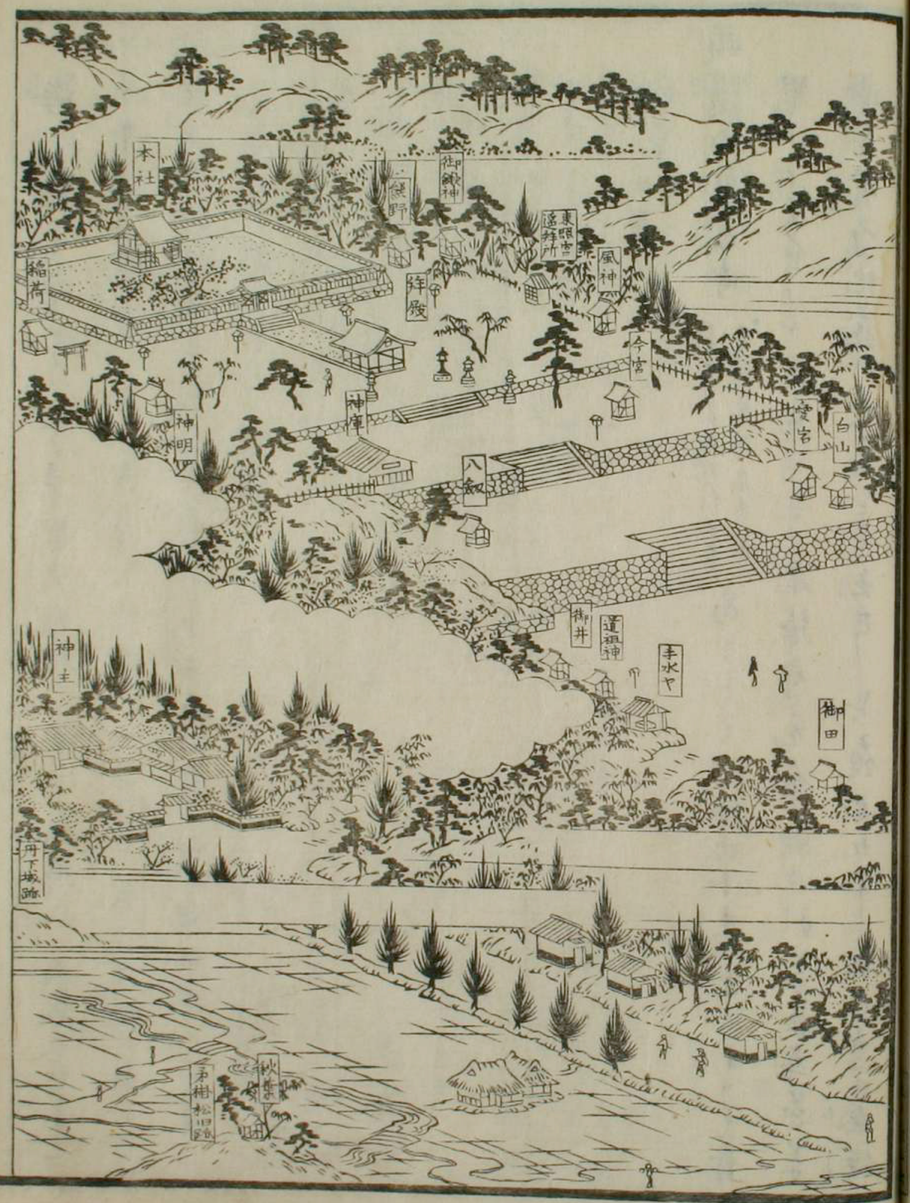
[illegible]

[illegible]

成海神社

當社神之
保秀

坂長多
ちちひ
きて
天の下
ちつつの
なるるの
神そ
ゖ祢





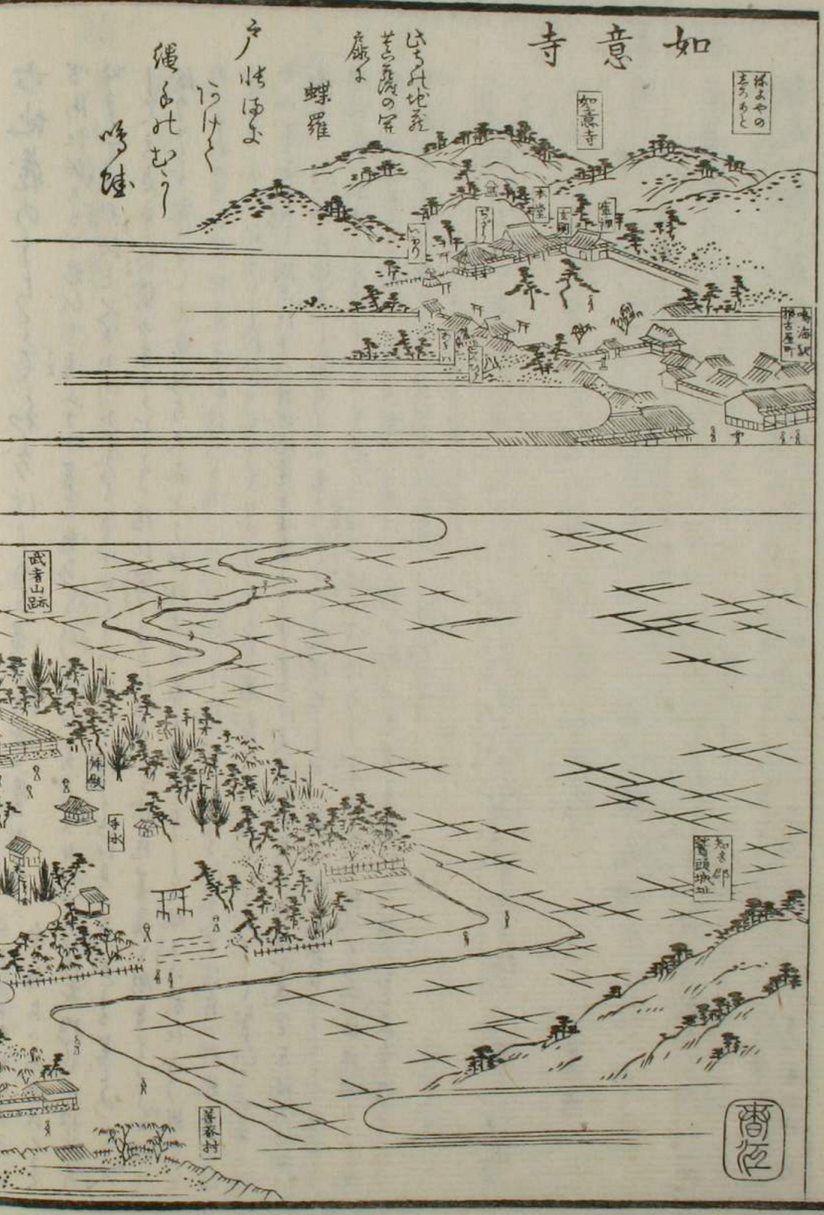
海天神と号す今東宮大明神と号す社傳に　天武天皇朱鳥
元年六月鎮座　日本武尊と祭るといふ　古の社は廃して
弘治三年信長ら寄附ま天正十七年山口長次郎勢遂ヒ
文書のこ紛ふ○例祭　六月廿一日神輿と扇川の縁うら清須所へ遷し来
日本武尊と東伐の時ここに船を舟流の神を祭ると云ふ　神男と号す一枝とめの川水流す武功の先と
有安ひて上古の形勢ものあらり拝もる心地して　そこで見ゆる　神寶　神鏡
八面　尚有城と安永伝申ら　古額一面　小野道風ま　東宮日月歩ノ矛掛松
尚宗範の寄進うり　の五文字と題せり
八幡宮　神社と称すれハ　東宮大明神の別名うらひ　例祭　八月十五日神輿
迂幸ありて　笠寺及び裕福寺　と社の方の表へ
御宿の月とろこにむまくをひの名礼この式に慣ひて笠寺をおせるもの多し
祠官　久野氏
頭護山如意寺　駅中お不思議にあり　曹洞宗陽泉寺末　小
鬼山と号すが康平二年尾張守元命朝臣氏家治為家菩
堂と営み地蔵の大像と安置せしと　施安五年長母寺の無住

國師中興し慶永四年今ハ宗ふうら陽泉寺に属を尾張
六地蔵のうちて和名にもる海寺是うり　地蔵霊験記に駅東元
尚ほに拾うが多びて通ふうなて救ふ　命朝臣ハ凶悪の人そ
ゆるうて比叡沢と号ふ小川ふうるを名が氷　してうき幸故僧の名をとう指に架しうらに
してうき幸故僧の名をとう指に架しうらに　ハ地蔵菩薩と刻ませうら
後りるが多くう元命朝臣大病をうけ後者為家と共に幸して燔玉の前にあり眷属と
なれるを彼地蔵多も待ひまぐくびて　願せけに元命朝臣ハ悪幸やめ
ずて悠人にろまれ給うとよくせばうら　て六角二階
の伽藍と営く園上に十八神の地蔵と安置　堂中多に丈六の地蔵の大像と造り東海の例に
安置一切衆の地蔵と称せしが年うりて　破壊せしと一国上ノ、年興せうふもうと
武地蔵毎年二月廿四日宝前に輪を掛へ　供仰あり罪て除を法くろろ武法式あり
俗に拾地蔵と称を又武日里人集うて的　地蔵多の利益により彼鬼を退治ら
ろ射る是昔寿鬼おて悠人をろまりうり
新古詠
名ろう行ろうろうろうれハ清ろあろ清つふん　荻原先後

放ち馬を　略り
亀章

花井　駅中花井町にあり安永伝申ら居住あり一切井の名に称
根古屋城址　駅中にあり住古安永伝申ら　駅中多くら是と波り
又ま伝云ふ此城ハ尚経五帝多経真幸其地に城と築立居住せしと
勤皇と崇ま尊慶城ろうるれり基九帝入遠して不干といひしが基多の地後

如意寺



成海八幡宮

府の名に負ひて　ゆゝしくも訳に絶
者をゞいざかづきけるに　光々しく我とむしたうみるたびねの神と
まもりに　ゆゝしくもかしこく
小まとのゝそうゝ　宮ゐさへ
うゝしが父俗中ら高久のまこゝろふよ
と肇創を成に三井山ゝ
まもられ三井氏
の鎮祖ゝり

三井山万福寺

訳中小ゆゝしの
の開基ゆゝして

木尊

行脚僧の主像
急ぎ大師の作

霊寶　聖徳太子尊像

時自作

阿弥陀の画像

恵心僧都の作

木林山浄泉寺

万福寺の東にあり
空の創建と浄空上人小
下に多一尊不表山小阿ゞ
州創ゞり子蓮東ら慧上人
祖ゝう文治年中兵火の
木林山と
霊宝　聖徳太子木像　頭都上人の作

塔頭　宝林寺

龍蟠山瑞泉寺

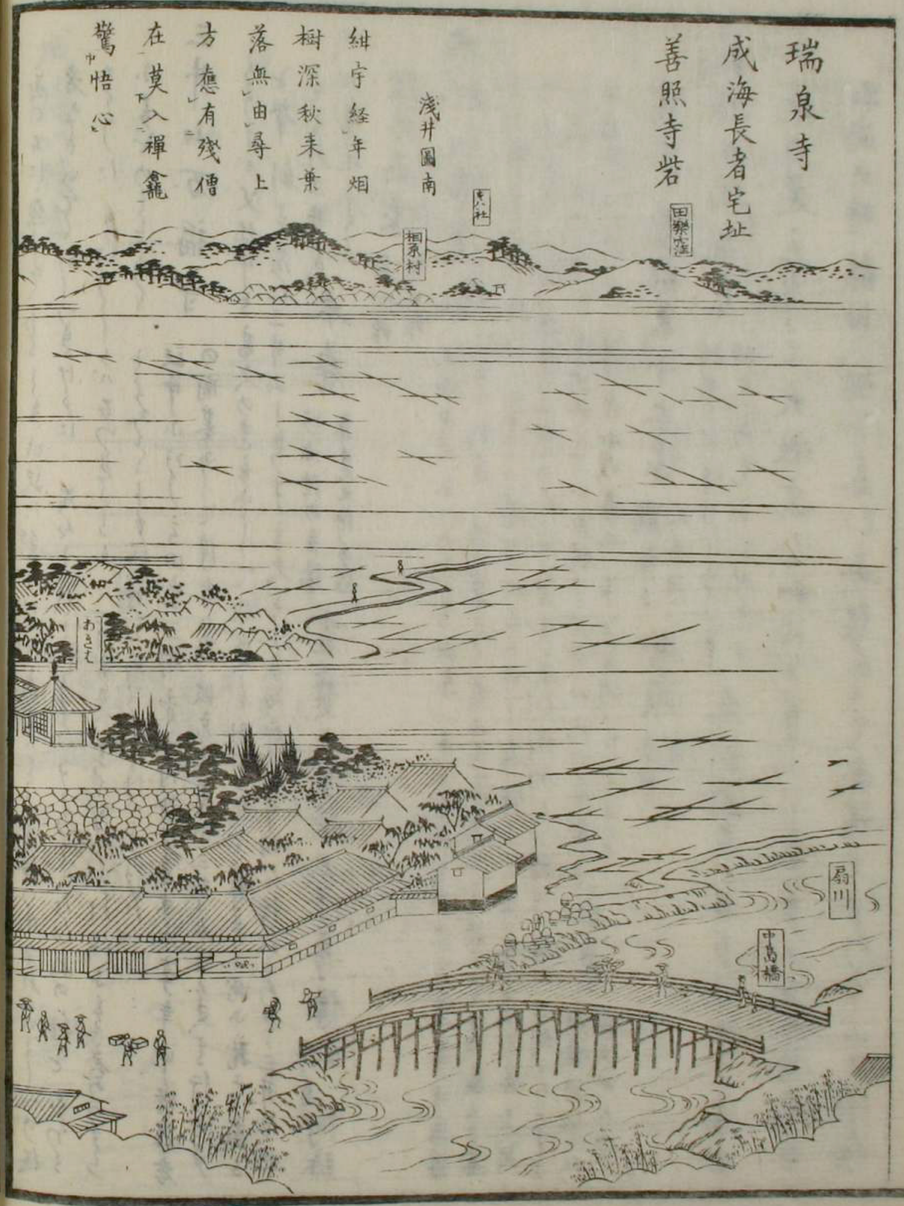
訳中中洲町にあり曹洞宗
同宗放光玉徳坊寺末

應永十年安東伯中ら源宗範の建立ゐて大徹宗令和尚と
和尚の時龍神徳を慕ひ毎夜来りて面謁ゝよろこび山ゐこゝ

瑞泉寺

成海長者宅址

善照寺砦



紺宇経年烟
樹深秋来葉
落無由尋上
方憩有幾僧
在莫入禪龕
鶯啼悟心

僧蓮純

混々瑞泉千歳
不絶汲之浴之
心垢頓潔貪兮
不生法兮不滅

石川貴溪

石壇疊々寺門
懸佛殿僧房次
第連知得山中
無俗染蟠龍自
古此標禪



湛然菴　十四景ノ四首之一

蕉中老人

大士元戚隊普門自
湛然般若波羅奈泉
禽鳴樹顛



細根山
一名
小山園



四望臺 同上

縱目泉山列巉巖胸大海寒古盆高敞慶眼界悠〻塵寰

遥題小山園

太田南畝

去歲一過鳴海濱偶然聊現宰官身山園不見圓通關隔斷東西駅路塵

御製



其二

永正元年平部より今地ふうして瑞祥寺と改むる

三年今の寺号に改む 曹洞宗瑞松大居士と号す〻應永九年の年号乃ち

本尊 釈迦の木像 山門額 臺華峯 字ハ呑舟 明人心越書

成海長者成高宅址 瑞泉寺より西にあり 近長享中の人と云ふ 古塚数に当時長者と称する見ゆ

丹下砦 訳の北にあり 永禄二年三月久川義元軍勢〻攻よんと傾むとも守支れバ住せず 叫沸に救ケ谷の要害と称す 水せ半刀山口沸老ら亜相柱生當先ち

てこの砦をきづかれし

〻住も況にんえんより

中嶋砦 諸中扇川の北にあり 回じ扇川の東に推川の墓として小き塚あり

善照寺砦 瑞泉寺より山にあり 今村古松ヶ七塚あり

扇川 上八平手狄田及びお京村ようお下八陽を流れ狄田あて沸ふ

入る訳中に橋あり 中島橋より

二位殿塚 叫沸村小ぢう浪人の墓ようふ 宗教大方ようふ渡ル塚ふまた

土人の

ふ幼ふと碑面苔蒸して文字を知るに足らず 土人の

伝へ云ふ 義元討死の時 二位殿と称する婦人の

此塚に葬ると 或ハ云ふ 義元の妻寿桂尼 駿府より

来由を弘ねず 又ハ義元の妾 某 尼 駿府より

に乗り四方の轡 奢ヒ日ごとに絶ず 瑞泉寺より

送ホとうせり

細根山 叫沸山の内の一名小山園と号す 當驛下郷氏の別荘より其之寿照菴 知足

の絶景うち山中に十四景うて四時ありそを一ごとに頌歌設けうる要ありき蕉中和尚の書もて小山園記小溪をそこに有きぬもうるとも十四景の標目ハ図上ハ就てを大概をうるに足ず

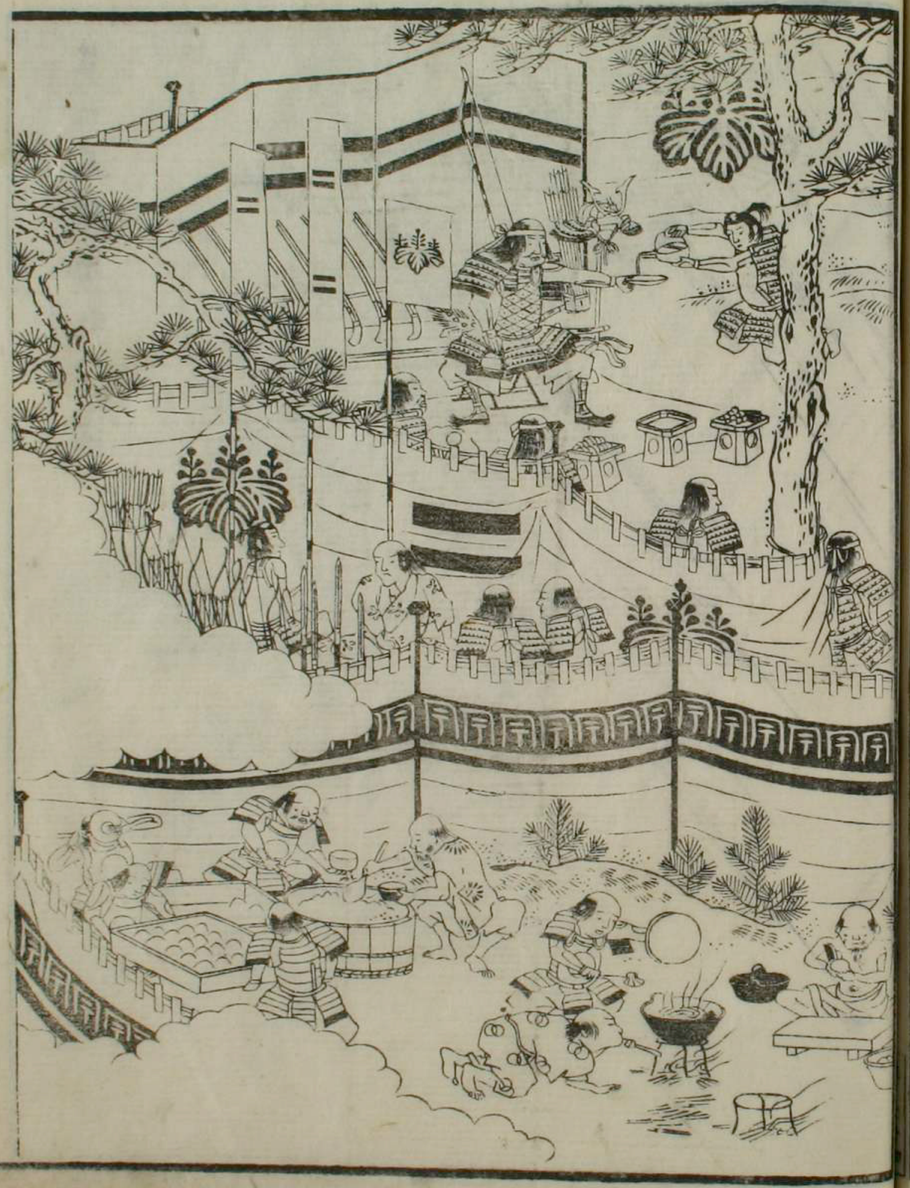
当時下々民別ハ千代倉と家号うる先祖を慎斯亀世三世ともに芭蕉の門人うて翁東西坐歴の時ハ終来ともに泊氏家に寄寓うて師弟の契ありて俳諧の教授及び星崎の冷れ自画賛を化を施も数多ありうを徐の秀吉を代の雅客詞林の数章を家に輯むされハをとの文人数上一見とをひてうにいうまでもうう一奥に有小曲堵基うて古くより氏家に義ともうものうり世に名うき奇品ううが乱又蕉中和尚の筆跡記小半幅一ひとつ小巻一ぬ

桶狭間古戦場

有松村と号会村のうち術道うり一里余南の方北平山ふ古ねぬこに在おる是を地うて義元及びを従下ハ血戦勇死の一ヶ所にうとうこと文ふに碑文と撰うて石に勒し戦場の中央にうとうこと文ふに碑文と撰うて石に勒し戦場の中央にうとうこと文ふに碑文と撰うて石に勒し戦場の中央

門を究竟の者共拵とうべて討とね敵頭と為て義元の見参
に入らうけんと物切と収べく今切ハ繁津丸根の両陣所よ
り乗取今又多の敵と討捕るも先も角も我陣を小ハ出るま
天魔鬼神なりとも寄たまり難かるべし中略へ移らせ給んと
思ふ小林佐渡
居らん角て信長卿ハ中略へやらて酒飲くそ
ら池田勝三家老毛利新介安田作兵衛ら
大勢にハ小勢少て難ら色給んハ勿論なりとも夫ハ面もれバやわ
少しも多理ハ難らんと云小ハわらぢかれ山法等終夜大ら堀へ
兵粮入るのそうぢを勢ハ丸根ハ繁昌丸根も落ぬ
大将も猶に安て常ハ解て休らん味方ハ示威も落れ
機と考ハ大軍なれバ思慮てもも平にかるんと思ひ
もし角油断して居けるを不意ハ討ん合戦とハ
落ども云ふもんなり寡と

うち見天のうつるおよめぢや抜ハ今捕る名ハ
うぢ一向軍切と考ふすべし
声して作ハとむとくく
ハてそ見えうる新
そ勿ご大して生年十八
報楽助中川今春助毛利河内守
まんで小頸と提くり
の後の山へ押ひとべー去
より義元が本陣へかる
近おで行ヒ最も抜べく
其陣と易べうぢ抜ハ
先陣ハ是ハ後陣へかう
ぐ色玉へと申上れバいく



桶挟間陣中ノ
今川義元
酒宴の図





其二尾張勢乱入の図

真三





其四
義元
最期の図



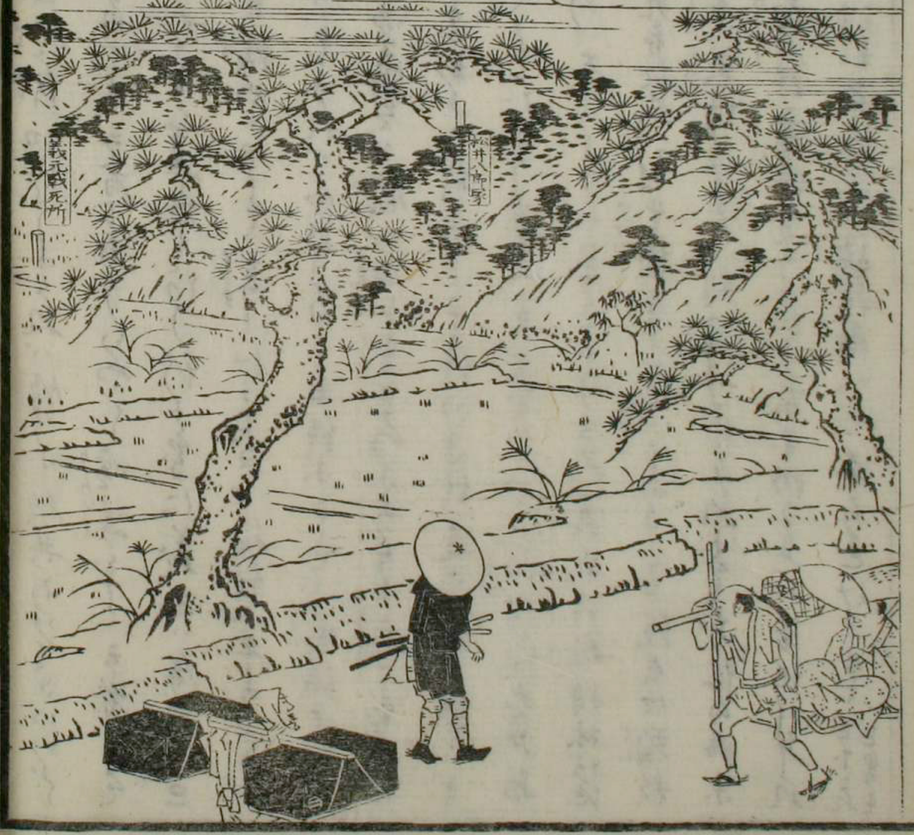


て爰に在もけんそ添軍の機をそ励しる打ち玉ふ小
村之末く大石頻りふ墜四の方ら吹り来り石氷と投るやく
ふぐ敵勢へ吹りかくる事あとたへく晴りけれバ味小考る
味方さへ敵陣小近づくとも覚束うき折ふしバ敵ハ勇てあ
ざりくも望之彼が陣どりし上う山ふく嶺をたる吾あり
ふくく駆よてかしまへバ織田造酒丞林佐渡与毛利新助
表二落ち耐中条小市吉山基を市田の内ふ築囲出ねち小
そ迎んぐる三基ふ耐中くハ敵ハ精勢之あり之くかうみで
敵陣をまうけゐべし足をたらさせてハ叶ふまじ吹馬と駆入駆之
もちふくれバ織田造酒丞林佐渡与毛利新助ハ百余騎ふて
陣あつ西りまたふをそ形勢十ふ程百余騎良が来を殺ひ
勢もこそふハ事て揚べき故会いる迎うれハ叶をゆと上
まつふふ玉姉と三嘆叫でると入四方ハ面駆破り駆通く

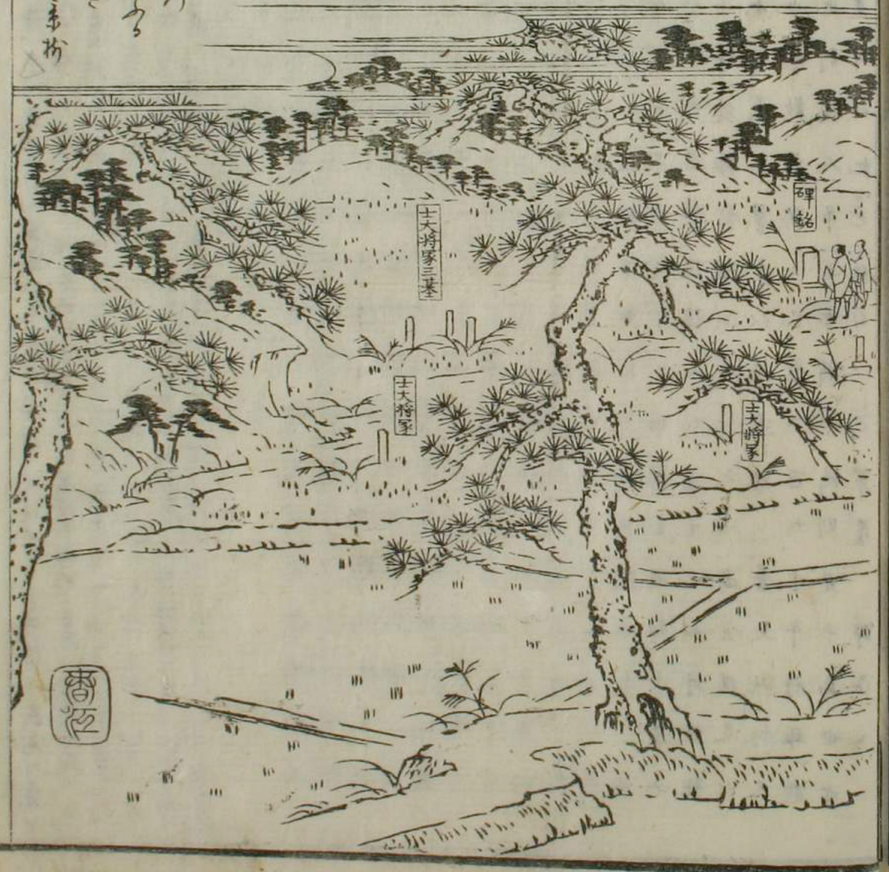
思いの侭ふ返ふ揃休切ひくれバ敵共ありてさいつぐ
謀叛人が有く角やと云者もありいやく喧嘩ぞと云者もありて
四士討をしてつく今ふ者もけう彩ふ事に義元ハ屏風引回
し毛氈ふをひ後やたして幸ひけふ事と指給小平をさし
かう角ぞく各ふれバふうふと云小ふとが最後ぞうう
ける打物抜く少年ふが膝の皿をそうふうふる糸一重ふ毛
利新助と名ふあく戦るうぎ仕つき仕遂小頭を給てぞ
おふうふる角てそたうもあへど上をすへて落かう之刀も
具添まて返ひ志ぐくふハ集うれ義元の回将林与添
しふ云者と手方九寸程ふ耐生捕まてぞ参うる給ふ々頸救
と仕るようハ莫大ふうふ則具て参れとまなの始末
首共の假名実名陣名ふをハ皆ふ記ふ作れ
まな林与添小ハ引おおふくて後の國へぞ遣らをけるく

桶狭間古戦場

陸尻
抑も前治部大輔
義元勢は四万余騎と
称ひきと雖し永
禄三年庚申五月十
八日午刻 首服の里
より大高に移り千九
日の朝先手に鳥居砦
ひしに辛垢お三き
にたゝかふ物と名大
子が報より二まゐ
ち一まい破れ先手
小浮ゝと自し勇へ
まゐり来りて田楽が
窪のを陣と攻るに
撃ひしぐ破れ不
意に敗れおりた大
る疾風の中一敵味
方ともえず降刀



乱を攘けて信馬踟
躕せりまるに依て
小平を毛利新助
奪ふ毛内をまぎれ
入義元の弟首と兼
ねてとぐ破兵狼狽
して東に走る尾兵
返討て首とるる
二千五百余級を中
名馬将士六十余人
と少えて今七塚ひ
もぐ年ふるれば
正地名とも伝ふ近年
信長ぐらて江山
ふり付まだくら
て人馬跡ふり野史
これとまし口碑里に
伝ふるけを



有と見へ若れまゐ
ふるくく松ふる
風のるしさ

素竹

執有ㇾ後　執孤傷
千萬秋　亂之思ㇾ治
舊跡碑
文化十三年巳己夏五月

建ニ片碑一　酬ニ古址一　来吊ㇾ之

捕狭間懐古

嗚呼悲哉虎丘之遠蹤松摧殘野艸蒿蓁沮洳遠ㇾ寡
有而若ㇾ無

尾張儒官秦鵬撰
大阪天滿中西融書

千人塚

舊名村の山上街道の東にあり　按ずるに千人塚とは彼士卒の多く戦死せしを埋めしなるべし

捕狭間懐古

嗚呼悲哉虎丘之遠蹤松摧殘野艸蒿蓁沮洳遠ㇾ寡
有而若ㇾ無

人見璣邑

田楽ヶ窪

里と呼ぶハ舊承名とをもふ　按ずるに田楽狭間と呼ぶ地あり是ハ名所方角抔に呼ぶ例の如く次に田楽ヶ窪と續きて
汜ふ九十坪皆掛なとの地名との如く
三河の國川のうち祐福寺入口
あるの道の絵　田楽ヶ窪

両村古驛

舊掛村の枝々名村是をいふ

和名抄に尾張國山田郡両村　布多無良　延喜兵部式の駅傳馬の条に尾張國駅馬　馬津　新溝　両村各十疋　今ハ印ㇾ西と両に攝ㇾ

登ニ高原一眇ニ遠慨一歎興敗于前跡何國歳有余獨悲ニ此捕ニ峡一云記曰永禄三年今川庾西征五月十九日陣ニ桶峡山北織田公以ニ奇兵一襲ニ之今川庾義元滅夫駿河強國也方ニ其圖一覇ニ覇相摸甲斐請ニ以ニ賊従一尾張攻ニ驚津丸根一拔ニ之往ㇾ送款於ㇾ是大擧入ニ尾張一旦屠ニ清洲一而朝食衆皆賀置ニ酒軍中會黒雲起ニ西北一風雨暴發敵人鼓ニ声亦従ニ背震一皆不ㇾ意ニ其猝至一中軍大乱格鬪死者二千五百餘人矣自ニ足利氏失ニ鹿四海戦場大内以ㇾ侈七武田以ㇾ暴滅而来ㇾ有若ㇾ此一戦而跌者也勝敗如ㇾ此誰知ニ其極一但勝之不ㇾ可ㇾ保矧可驕哉悲也夫雖ㇾ然或聞軍敗自ニ先鋒一還闘與ニ卒二百人皆死或守ニ孤城一不ㇾ走請ニ主一而歸若ㇾ斯類者累世所ㇾ養豈不ニ皆忠烈一哉籍使後人有ニ庸主之材外結ニ強援一内用ニ君士一師徒雖ㇾ虧駿河遠江之地尚全猶是ニ以向西報伐一也游蕩忘ㇾ讐卒以播遷悠ニ蒼天一此何人哉今生ニ平世一耽ニ歓前跡一已歷二百五十年時雖ㇾ遷乎事猶ㇾ昨也則後人吊ㇾ之亦猶ㇾ今爾則是千萬世亦何有ㇾ極請建ㇾ碑以記ㇾ之銘曰

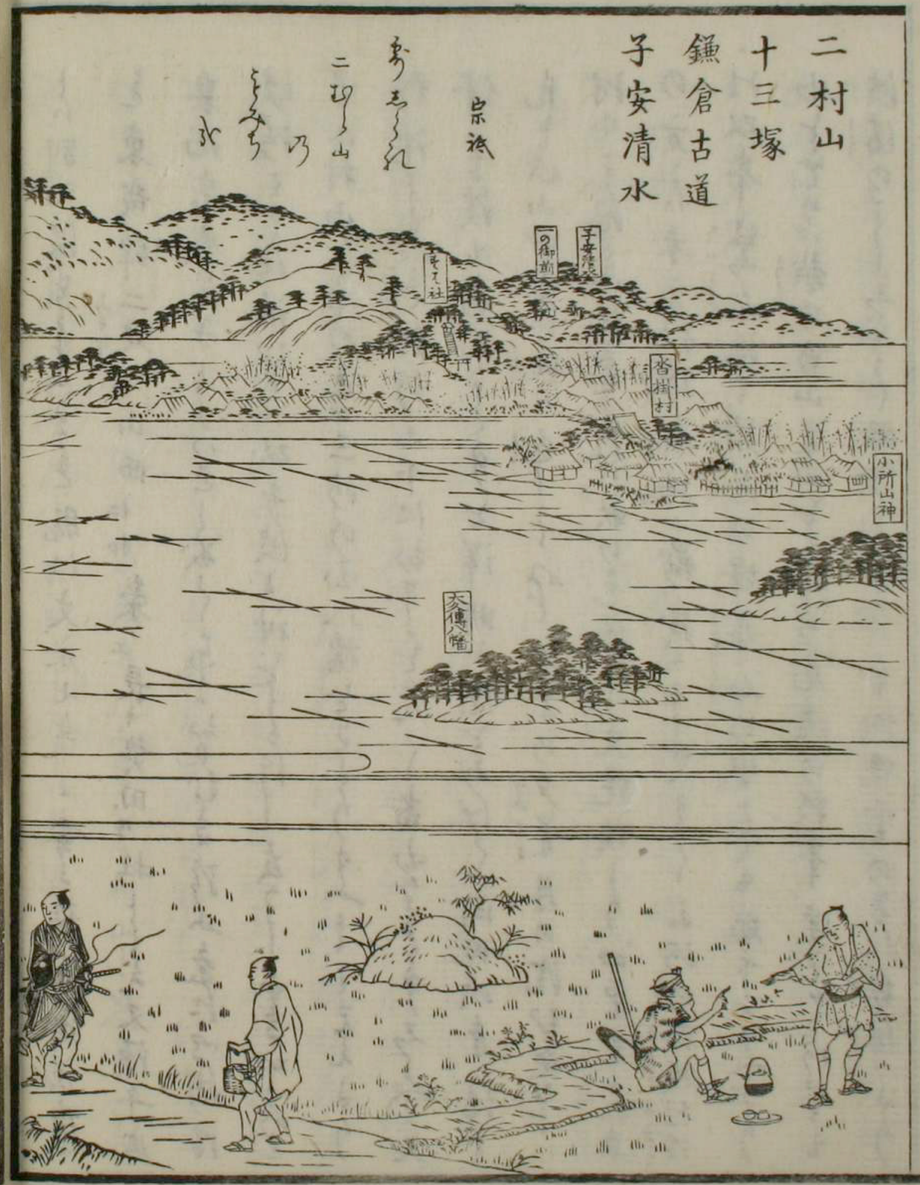
三軍覆野注ㇾ

往古の官道ハ伊勢國桑名の駅より尾張國馬津駅小波止新
溝両村の駅を歴て冬ハ河國鳥捕駅ゟ至ル凡皆掛ゟ
馬ハ多くハ古跡のまゝ伝濃國小縣郡浦野古跡麓
て皆掛村のこと佐久那皆掛宿も長倉古跡の孫ゟ
信濃地名考にハ皆掛村を古厩ゟ訛るといへり
二村山 皆掛村 土人ハ岌山ゟ呼ぶ 山の下を通て三河ゟ
八橋の方へ行ゟ 和名抄ニハ武山の下を延喜式ニ尾張の地名
ゟ見ゆる古跡の条に委しく記ス 橘経元の詞
花集の詞書に武蔵の国ゟ夫木集西行の歌に三河ゟ二
村山ゟ 三河ハ宝義寺九山等と二村山とハ並び記
ゟ古歌ハ三河ゟ尾張ゟ古歌ハ尾張ゟ三河の山

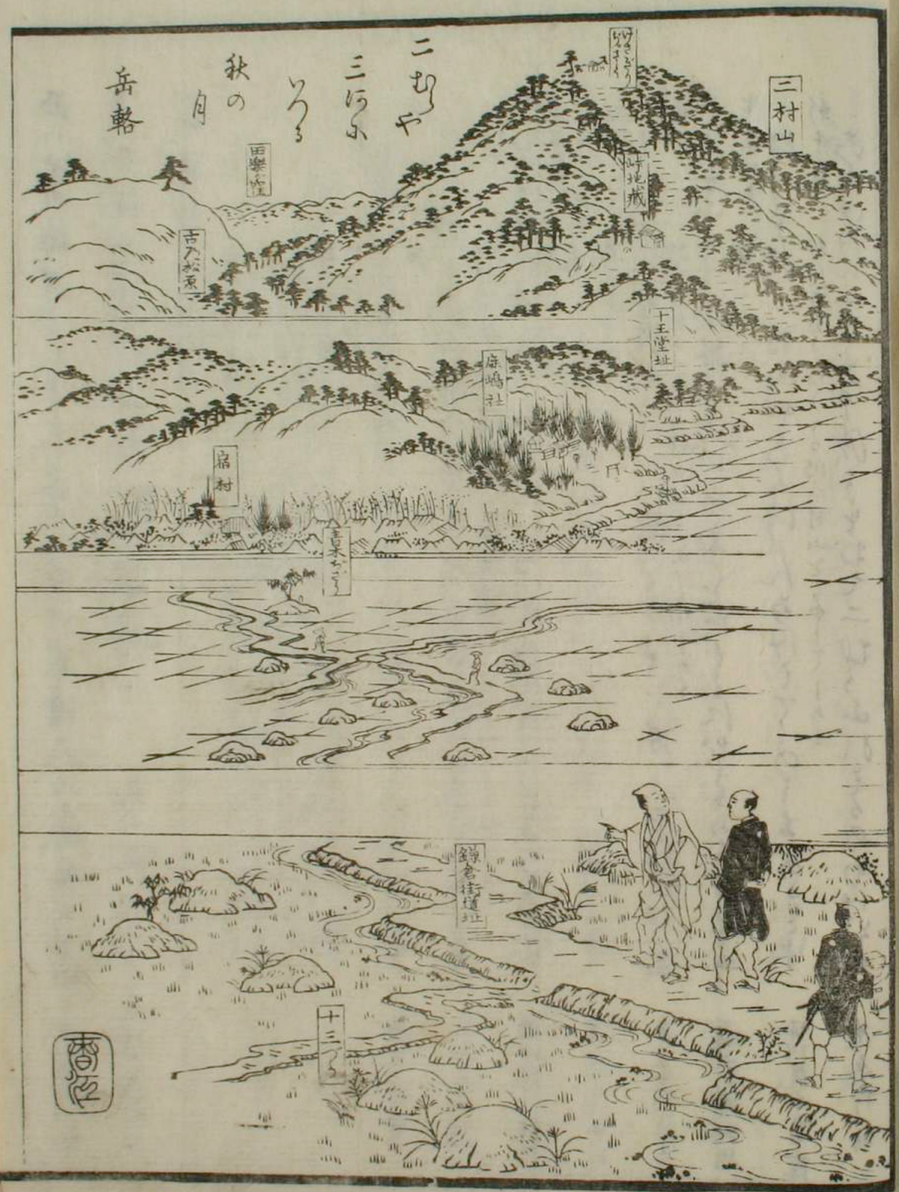
ゟ別之混ゟ事ハ既に文永七年ゟ書る摸田の詣歌詩ゟ
ゟ東哉錦二疋乃山西仁和 榮エ長き摸田乃杜 ゟ又源平盛
衰記宗盛父子ゟ ゟ 汐汲ゟ泳ハ波ゟ沖ゟ 神ゟ 友ゟ
ゟ二村山ゟ始ハ三河の宝八橋ゟ
野徒ゟ 紀行ニハ 仲ゟ 雨田次孝ゟ 又
俳諧ゟ渓ゟ 南國ゟ 洋明小徑ゟ 又
孔ゟ 山四季の眺ゟ 紅葉の名所月の泥ハ 夜ゟ
林ゟ 風ゟ 糸ゟ 揚ゟ ゟ秋の色ゟ
の方ゟ 木ゟ 汚ゟ 薄ゟ 豹ゟ 霧ゟ
れ双峯黛ゟ 添ゟ 芳ゟ 山ゟ 峰ゟ
小ゟ 山ゟ 峡ゟ 越ゟ 白山ゟ 山ゟ ゟ
波濤ゟ ゟ ゟ 眼ゟ ゟ ゟ 授村 佐ゟ

二村山
十三塚
鎌倉古道
子安清水

宗祇



二むらや
三つふ
ろう
秋の
月
岳翁



西ハ蒼海洋々として布帆の往来漁人の扁舟あそやにまい
多の浦山をくハ伊勢の朝熊嶽までも一の光景らんべ
一の光景らんべ

おそやけ後こゝろあのくまうけ侍る女にかくやむことなきを送られいみしきまゝ
ひてかくるとなく侍にて後にかくれいよひにたゝりしうらみをおもひてかくのみ
ふやとこむけるみくほう

後拾遺
こゝろこゝろわやに為くあ

同
かく衣をしと慕ふ

藤川院の御時きさいの宮にて
千載
五りやふこむ山のかく

後白河
院右今
こゝろかくこゝひもあけぬ

猿の通ひ路のさくら

同
ちらまくハ神路のさくら

祭ふのかくして二村山とこゝ
同
よそふう小笹うくのかを

後後拾遺
駅らん
ほゝまき次二村山やあらん

新千載
おにのかう行うう四二村山とこゝ
こゝろむ二村山

清原諸實
よみ人も次

権中納言後忠
順徳院御歌
平泰時朝臣
前右大将頼朝朝
堀川院中宮藤
為家行朝

家集
玉ちけ二むら山の月新ハ万代とてをへん

家集
秋風にたゝさゝる雲の峯たに

拾木并歌
今こゝにいふこむら山のにまこゝ

長秋添草
幸と
ゐこゝきこゝろむら山とゐれい顔とをゝて

夫木
こゝろ二村山のふ

弘安二年筥根山奉納百首
同
こゝとをすゝわや先もこゝ

同
花ちく衣の里ハうゐ

同
二村の山の薬の秋萩小路と

永久四年七月忠隆家歌合 紅葉
同
唐こゝき二むら山の紅葉

同
かこゝきおこゝとゝきに

同
あこれをこゝろ二むら山と

名寄
これこゝろむら山と

為盛
重之
後拾遺
後成々
為家百首朝臣
安嘉門院四條
為家経衡
高中納言長房
為家為忠朝臣
楊為仲朝臣
藤為忠朝臣
後鳥羽院

日

雲こそあるらめやまぶかき雪の二むらの山　前内大臣基

日

二むらの山のそむ色のえふかきを　小侍従

日

時雨ていくしぐれ来ぬらん　為氏

山松れ木ら立葉吉かきふ二村山に帰けき沢　道堪

ふるむらの山ふかくみち染めてきそ遥かに　後京極殿

後奥ハ此山おひく松ハかりとも松ちれる木ハ此山ハ

きくらしつゝ雪ふる筆意の事ハ陸の字を知れ也　沈ハ多年の夏あれハおもかろ

せ一再沈く我ハ一世の余なれハ松ハ此ハ

庵主

二むら山そ時しものそらくく　為家

わらくらみのうらうとてもそらくく

ふるさぬそふハ又とふるむらの松のやまねるころの

山中よ堺川あり名ハ沈にうんてひとり海をとも我とふるひく

かくてこの沈にいるらぬ

永実紀行

やそ秋のうちにさむく山にうそて山中よ我さらかふひんりやうく

そ沈のおそてうふかうとひうく波もをとひ河そ山松につきくる

やうにえゆ

雨内大臣基

小侍従

為氏

道堪

後京極殿

川合一叢

後京極殿

二むら山の時雨

いまくひの日記

二村山と我くりにおもひいくそ

そうくく二村山をひうとく松

八幡にて御ふんうふくさに松もふそにうらぬ

富士紀行

二むら山

雲もきえ雪もこれり秋のそら

富士紀行

二むら山我待そ

くふこゆ二むら山のもみち紅葉

中秋二村山にやそて

白葉

奥山もそ竹うく並こそうき

嶺山石地蔵　二村山の峯に小堂を安置に此地蔵を

背に大同二の文字と彫付る上ハ折まく下半身のく彫

統頂に磐沈切地蔵そて刀もて切る古縁そて

背に古来佛仏大被一建之延

宝七年の文字えゑう

清沸ハ大同二年一そきうな

予安清水　下ら根一沸前社のさにうう

のりハ必安産すとひ沸ふうく名づく

晩春

雅世

光孝

晩春

士朗

東京帝國大學圖書之印